

藤井省三教授

年譜・中国関係業績目録



1995年3月23日東京大学法文1号館4階413号室
藤井省三先生研究室にて

(高橋智 慶應義塾大学ス道文庫助手(当時)撮影)

『藤井省三教授 年譜・中国関係業績目録』の刊行にあたって

藤井省三先生は1988年に東京大学文学部にご着任以来、30年間に渡り中国語中国文学研究室の教育にご貢献下さいました。大学では中国近現代文学を講ずる授業を開講され、多くの学生に中国語圏文学の魅力を伝える一方、大学院ゼミでは『周作人日記』『胡適日記』等の文献を逐語的に読解する授業を行われ、50名以上の門下生を育成されました。また先生は中国人民大学、南京大学、台湾大学、香港教育大学やコロラド大学など海外の名門大学より客員教授として招聘され、長期短期の講義を続けられる中、各国の研究者と膠漆の交わりを結んで数々の共同研究を行い、「東アジアにおける魯迅「阿Q」像の系譜」「東アジアにおける村上春樹」など100を超える国際学会や国際シンポジウムを主催あるいはそれに参加されました。

そのような多忙な学務と研究の中でも先生は学生との面談の時間を惜しまれることなく、書籍が積まれた研究室で、夏には団扇を、冬には膝掛けを愛用されながら、伶俐かつ穏やかな口調でご指導下さるお姿は多くの学生から尊敬され愛されておられました。

一方、先生は象牙の塔に籠もること無く、現代の作家や映画関係者、編集者の方々とともに「作品」が生まれ読まれる現場に立ち、新聞や雑誌など数々のメディアを通じて最新の中国語圏の文化・芸術について広く社会に向けて発信し続けられました。

本目録はこのような先生の研究成果を可能な限り収集し、著訳書・学術論文・文芸評論・雑纂・国際学会講演報告をそれぞれ発表年順に掲載したものです。紙幅の都合により共同研究の詳細や一般向けの講演については収録していません。先生の研究範囲は中国大陸および香港、台湾、韓国、シンガポールなど中国語圏を中心とする東アジア全域に及び、研究対象は魯迅、蘇曼殊や章炳麟から莫言、鄭義、韓寒、呂赫若、李昂、也斯、董啓章まで、また夏目漱石から松本清張、村上春樹までと近代150年の文化・芸術に及んでいます。

先生の学術論文第一号「近代中国におけるバイロン受容をめぐって——

章柄麟・魯迅・蘇曼殊の場合——」（『日本中国学会』第32輯所収）は、新進気鋭の研究者による新しい魯迅論として日本中国学会賞を受賞しましたが、論文の発表年が1980年であったことは、先生の研究史にとっても日本の中国近現代文学研究にとっても象徴的な出来事であるように思います。1980年代とは、1972年の日中国交正常化、1978年の日中平和友好条約締結を経て、日中双方が新たな関係を構築しようと交流を期待し模索した時代でした。先生は1979年に上海の復旦大学に留学されましたが、日中両国政府交換留学第一期生の使命を果たすかのように、時代の要請に応じて中国近現代文学に関する研究成果を次々と発表されました。1980年代中国とは文革の混乱から改革開放へと向かう転換期であり、やがて1989年の天安門事件を経て経済成長の1990年代へと続く激動の時代でもありました。また香港や台湾では経済発展の中で各地域のアイデンティティが形成され、独自の文化芸術が現れた時代でした。20世紀から21世紀へと世紀を越え、日本と中国大陸および台湾、香港、そして韓国、シンガポールと東アジアをご自身が「越境」し、各地の歴史や文学芸術に沈潜すると同時に、それぞれの文化芸術の最前線に赴いてテーマを切り開き続けた藤井先生の研究の軌跡は、1980年代から現在に至る中国語圏を中心とする東アジア文化交流史そのものと言えるのではないのでしょうか。

北京の春、天安門事件など幾度ももの挫折を越え、研究に邁進された先生の精力的な仕事の背後には、複雑に絡み合い時には衝突する東アジアの地で、文学や芸術を通じて双方の国民性を理解することができれば武力衝突を回避できるという平和への信念が横たわっていることを、先生は最終講義で話されました（2018年3月）。21世紀現在、グローバル化が急進する東アジアでは各国の交流は緊密になると同時に緊張をはらみ、私達は狭隘なナショナリズムの陥穽に陥る危険と隣り合っているように思います。一方、多様化しかつ周縁化する人文学の中で日本の中国近現代文学研究者の役割は厳しく問われているように思います。このような今、「文の力」を信じて中国近現代文学研究を切り開かれた藤井先生のご経歴・業績は、行く手を照らす炬火として私達を導いて下さるのではないのでしょうか。本目録が中国近現代文学研究にとって貴重な資料となることを祈り、先生への

尊敬をこめて序文とさせていただきます。

2018年11月10日
東京大学中国語中国文学研究室
助教 白井澄世

藤井省三教授 年譜

- 1952年11月15日 東京都品川区で出生、大田区馬込で育つ。
- 1965年3月（12歳） 大田区立馬込第二小学校を卒業。
- 1968年3月（15歳） 大田区立馬込東中学校を卒業。
- 1972年3月（19歳） 都立日比谷高等学校を卒業。
〔1969年4月より一年間休学、ロータリー・クラブ交換留学生としてオーストラリア・Haileybury College（パブリック・スクール高等部）に在籍〕。
- 1972年4月（19歳） 東京大学教養学部文科三類に入学。
- 1974年4月（21歳） 東京大学文学部中国語中国文学科に進学。
- 1976年3月（23歳） 東京大学文学部中国語中国文学科を卒業（文学士）。卒業論文は「蘇曼殊小説論」。
- 1978年3月（25歳） 東京大学大学院人文科学研究科中国文学専攻修士課程を修了。修士論文は「個と民族——章炳麟から魯迅・蘇曼殊への展開をめぐる」。
- 1978年4月（25歳） 東京大学大学院人文科学研究科中国文学専攻博士課程に進学（中国文学）。丸山昇教授に師事。
- 1979年9月（26歳） 復旦大学中国文学系に留学（中国政府国費留学生）。北京魯迅博物館・陳漱渝教授、華東師範大学・王自立教授らに師事。
- 1980年8月（27歳） 帰国。
- 1982年3月（29歳） 東京大学大学院人文科学研究科中国文学専攻博士課程を単位取得満期退学。
- 1982年4月（29歳） 東京大学文学部・助手となる。
- 1985年4月（32歳） 桜美林大学文学部・助教授（中国文学）となる。
- 1988年4月（35歳） 東京大学文学部・助教授（中国文学）となる。
- 1991年9月（38歳） 東京大学より博士（文学）学位を授与される。博士論文は「魯迅文学の形成と日中露三国の近代文

化] (博士論文審査委員は主査：丸山昇教授、副査：丸尾常喜教授、川端香男里教授、丸山松幸教授、佐藤慎一助教授。)

1994年7月(41歳) 東京大学文学部教授となる。

1995年4月(42歳) 東京大学大学院人文社会系研究科教授となる。

2005年10月(52歳) 日本学術会議会員となる(2014年9月30日まで)。

2018年3月(65歳) 東京大学大学院人文社会系研究科を定年により退職。

2018年6月(65歳) 東京大学大学院人文社会系研究科名誉教授となる。

[非常勤講師として下記大学に出講]

宇都宮大学、東京大学(教養学部)、東京大学(文学部)、和光大学、桜美林大学、静岡大学、金沢大学、大阪大学、京都大学、熊本大学、東北大学、山梨大学、山形大学、二松学舎大学、神戸大学、早稲田大学、放送大学。

[訪問学者その他]

北京大学、中国人民大学、北京国際関係大学、南京大学、南京師範大学、東北師範大学、香港大学、香港嶺南大学、香港教育大学、シンガポール国立大学、台湾大学、中央研究院、コロンビア大学、コロラド大学。

[受賞歴]

1981年(29歳) 日本中国学会賞を受賞。

[受賞論文「近代中国におけるバイロン受容をめぐって—章炳麟・鲁迅・蘇曼殊の場合—」]

1983年(31歳) 第2回東方学会賞を受賞。

[論文「鲁迅・周作人における『ネーション』と文学—〈河南〉雑誌掲載論文の比較研究」(『東方学』第62輯)およびこれと関連する研究活動により受賞]

2003年(51歳) 第19回大平正芳賞を受賞。

[『鲁迅事典』(東京：三省堂、2002年)により受賞]

2016年(64歳) 第4回岡倉天心記念賞翻訳賞を受賞。

〔林敏潔・南京師範大教授との共訳『莫言の思想と文学』（東京：東方書店、2015年）、『莫言の文学とその精神』（東京：東方書店、2016年）により受賞〕

藤井省三教授 中国関係業績目録

〔表記について〕

- ・本目録は、著訳書類、期刊雑誌等掲載類〔学術論文等・文芸評論等・翻訳等・雑纂等〕、国際学会講演報告類に三区別し、その中で時系列に並べて表記した。
- ・著作は発表時の言語で表記した（簡体字中国語、繁体字中国語、英語、韓国語など）。
- ・翻訳された著作は、〔○○語〕及び翻訳者を記し、原題等の説明は〔 〕内に記した。
- ・刊行物の出版社・発行所は初出時のみ〔場所：発行所〕で記した。

1、著訳書類

1-1、単著

『ロシアの影——夏目漱石と魯迅』、東京：平凡社〔平凡社選書87〕、全242頁、1985年4月。

『魯迅——「故郷」の風景』、東京：平凡社〔平凡社選書100〕、全276頁、1986年10月。

『エロシエンコの都市物語——1920年代東京・上海・北京』、東京：みすず書房、全348頁、1989年4月。

『中国文学この百年』、東京：新潮社〔新潮選書〕、全240頁、1991年2月。

『東京外語支那語部——交流と侵略のはざままで』、東京：朝日新聞社〔朝日選書〕、全214頁、1992年9月。

『現代中国の輪郭——魯迅、胡適から鄭義、莫言まで文学を通して読む』、東京：自由国民社〔読書の冒険シリーズ〕、全239頁、1993年6月。

- 『100년간의 중국문학』〔韓国語〕金良守譯、서울 : 토마토、全 255 頁、1995 年〔『中国文学この百年』の韓国語版〕。
- 『中国映画を読む本』、東京：朝日新聞社、全 224 頁、1996 年 5 月。
- 『鲁迅比较研究』〔中国語〕陈福康编译、上海：上海外语教育出版社、全 279 頁、1997 年 3 月。
- 『鲁迅「故郷」の読書史——近代中国の文学空間』、東京：創文社〔中国文学叢書〕、全 340 頁、1997 年 11 月。
- 『台湾文学この百年』、東京：東方書店、全 252 頁、1998 年 6 月。
- 『現代中国文化探検——四つの都市の物語』、東京：岩波書店、全 240 頁、1999 年 11 月。
- 『百年の中国人』、東京：朝日新聞社、全 252 頁、2000 年 4 月。
- 『현대중국, 영화로 가다』〔韓国語〕김양수〔金良守〕역、서울 : 지호、全 254 頁、2001 年〔『中国映画を読む本』の韓国語版〕。
- 『鲁迅事典』、東京：三省堂、全 326 頁、2002 年 4 月〔第 19 回大平正芳賞受賞作品〕。
- 『中国映画 百年を描く、百年を読む』、東京：岩波書店、全 256 頁、2002 年 7 月。
- 『鲁迅「故乡」阅读史：现代中国的文学空间』〔中国語〕董炳月译、北京：新世界出版社、全 255 頁、2002 年。
- 『현대 중국 문화 탐험 : 네 도시 이야기』〔韓国語〕백영길〔白永吉〕옮김、서울 : 소화、全 256 頁、2002 年〔『現代中国文化探検——四つの都市の物語』の韓国語版〕。
- 『NHK 人間講座 新・鲁迅のすすめ』、東京：日本放送出版協会、全 157 頁、2003 年 2 月。
- 『中国見聞一五〇年』、東京：日本放送出版協会、全 222 頁、2003 年 7 月。
- 『台湾文学這一百年』〔中国語〕張季琳譯、台北：麦田出版、全 330 頁、2004 年 8 月〔『台湾文学この百年』の増補中国語版〕。
- 『20 世紀の中国文学』、東京：放送大学教育振興会、全 275 頁、2005 年 3 月。
- 『村上春樹のなかの中国』、東京：朝日新聞社〔朝日選書〕、全 269 頁、2007 年 7 月。

- 『村上春樹心底の中國』〔中国語〕張明敏譯、台北：時報文化出版、全 269 頁、2008 年 7 月〔『村上春樹のなかの中国』の中国語版〕。
- 『魯迅——東アジアを生きる文学』、東京：岩波書店〔岩波新書〕、全 262 頁、2011 年 3 月。
- 『中国語圏文学史』、東京：東京大学出版会、全 244 頁、2011 年 10 月。
- 『중국어권 문학사』〔韓国語〕김양수〔金良守〕역、서울：소명출판、全 365 頁、2013 年 12 月〔『中国語圏文学史』の韓国語版〕。
- 『루쉰：동아시아 에 살아 있는 문학』〔韓国語〕백계문訳、과주：한울、全 294 頁、2014 年 2 月〔『魯迅——東アジアを生きる文学』の韓国語版〕。
- 『隔空观影』〔中国語〕叶雨译、北京：世界图书出版公司、全 247 頁、2014 年 8 月〔『中国映画 百年を描く、百年を読む』の中国語版〕
- 『华语圏文学史』〔中国語〕贺昌盛译、南京：南京大学出版社、全 222 頁、2014 年 8 月〔『中国語圏文学史』の中国語版〕。
- 『魯迅と日本文学——漱石・鴎外から清張・春樹まで』、東京：東京大学出版会、全 262 頁、2015 年 8 月。
- 『魯迅と紹興酒——お酒で読み解く現代中国文化史』、東京：東方書店、全 286 頁、2018 年 10 月。

1-2、共編著

- 『よみがえる台湾文学——日本統治期の作家と作品』〔下村作次郎／中島利郎／黄英哲との共編著〕、東京：東方書店、全 564 頁、1995 年 10 月。
- 『新しい中国文学史——近世から現代まで』〔大木康との共著〕、京都：ミネルヴァ書房、vi／全 279 頁、1997 年 6 月。
- 『台湾の「大東亜戦争」——文学・メディア・文化』〔黄英哲／垂水千恵との共編〕、東京：東京大学出版会、全 321 頁、2002 年 12 月。
- 『講座 台湾文学』〔山口守編、河原功／垂水千恵／山口守との共著〕、東京：国書刊行会、全 259 頁／xxxvp、2003 年 3 月。
- 『岩波講座「帝国」日本の学知』第 5 卷（東アジアの文学・言語空間）、〔藤井省三責任編著、山口守／伊藤徳也／フェイ・ユエン・クリーマンほかとの共著〕、東京：岩波書店、全 319 頁、2006 年 6 月。

- 『東アジアが読む村上春樹——東京大学文学部中国文学科国際共同研究 Murakami Haruki study books』〔藤井省三編、金良守／松崎寛子／張明敏らとの共著〕、東京：若草書房、全367頁、2009年6月。
- 『1Q84スタディーズ〈book 1〉Murakami Haruki study books』〔ルービン・ジェイ／渡部泰明／井桁貞義／明里千章ほかとの共著〕、全265頁、東京：若草書房、2009年11月。

1-3、翻訳書・注釈書

【単訳】

- 巴金著『長生塔——巴金童話集』〔中国文学名作双書1〕、東京：駿河台出版社、全85頁、1986年。
- 魯迅著『魯迅「童話」集——兔和猫』〔中国文学名作双書3〕、東京：駿河台出版社、全80頁、1988年。
- 鄭義著『古井戸』〔『発見と冒険の中国文学』第1巻〕、東京：JICC出版局、全243頁、1990年10月。
- 莫言著『花束を抱く女』、東京：JICC出版局、全211頁、1992年10月。
- 李昂著『夫殺し』、東京：宝島社、全206頁、1993年5月。
- 莫言著『酒国』、東京：岩波書店、全303頁、1996年10月。
- 鄭義著『神樹』、東京：朝日新聞社、全598頁、1999年10月。
- 施叔青著『ヴィクトリア倶楽部』、東京：国書刊行会、全322頁、2002年11月。
- 李昂著『自伝の小説』〔新しい台湾の文学〕、東京：国書刊行会、全349頁、2004年10月。
- 魯迅著『故郷／阿Q正伝』、東京：光文社〔光文社古典新訳文庫〕、全341頁、2009年4月。
- 魯迅著『酒樓にて／非攻』、東京：光文社〔光文社古典新訳文庫〕、全286頁、2010年10月。
- 莫言著『透明な人參：莫言珠玉集』、東京：朝日出版社、全286頁、2013年2月。
- 李昂著『海峡を渡る幽霊——李昂短篇集』、東京：白水社、全260頁、

2018年2月。

張愛玲著『傾城の恋／封鎖』、東京：光文社〔光文社古典新訳文庫〕、全232頁、
2018年5月。

【共訳】

魯迅著『魯迅全集』第12巻「訳文序跋集」〔丸山昇責任編集、蘆田肇ほか
訳〕、東京：学習研究社、全612頁、1985年8月〔担当頁は209～278頁、
321～333頁、495～502頁、506～507頁、512～522頁、533～535頁、
555～556頁〕。

羅信耀著『北京風俗大全：城壁と胡同の市民生活誌』〔藤井省三／佐藤豊
／宮尾正樹／坂井洋史との共訳〕、東京：平凡社、全491頁、1988年4
月〔担当頁は3～120頁〕。

『中国幻想小説傑作選』〔竹田晃編集〕、東京：白水社、全293頁、1990年
12月〔担当頁は198～279頁、287～293頁〕。

莫言著『中国の村から——莫言短編集』〔『発見と冒険の中国文学』第2巻〕、
東京：JICC出版局、全240頁、1991年4月〔担当頁は「秋の水」7～30頁、
「白い犬とブランコ」51～82頁、「金髪の子ちゃん」109～204頁、「解
説・魔術的リアリズムの描く中国農村」213～240頁〕。

魯迅ほか『笑いの共和国——中国ユーモア文学傑作選』、東京：白水社、
全267頁、1992年6月〔担当頁は魯迅著「あひるの喜劇」5～10頁、
張愛玲著「外国人が京劇およびその他を観ると」79～92頁、莫言著「蠅・
前歯」168～203頁〕。

『現代中国短編集』〔平凡社ライブラリー〕、東京：平凡社、全366頁、
1998年3月〔担当頁は莫言著「良医」9～22頁、莫言著「お下げ髪」
23～46頁、李昂著「さらば故郷／西蓮／水麗」325～350頁〕。

董啓章著『地図集』〔中島京子との共訳〕、東京：河出書房新社、全280頁、
2012年2月。

莫言著『莫言の文学とその精神——中国と語る講演集』〔林敏潔編、林敏
潔との共訳〕、東京：東方書店、全422頁、2016年7月〔第4回「岡倉
天心記念賞翻訳賞」受賞作品〕。

莫言著『莫言の思想と文学——世界と語る講演集』〔林敏潔編、林敏潔との共訳〕、東京：東方書店、全245頁、2015年11月〔第4回「岡倉天心記念賞翻訳賞」受賞作品〕。

今福龍太・沼野充義・四方田犬彦編『世界文学のフロンティア』第2巻「愛のかたち」、東京：岩波書店、全238頁、1996年11月〔担当は李昂著「色陽」176～189頁〕。

今福龍太・沼野充義・四方田犬彦編『世界文学のフロンティア』第4巻「ノスタルジア」、全300頁、東京：岩波書店、1996年11月〔担当頁は莫言著「女郎遊び」239～253頁〕。

若島正編『エソルド座の怪人：アンソロジー／世界篇』、東京：早川書房、全286頁、2007年3月〔担当頁は李昂著「セクシードール」169～190頁〕。

1-4、監修書・監訳書

クリストファー・ニュー著『上海』〔長堀祐造ほか訳、藤井省三監訳〕、東京：平凡社、上巻全544頁、下巻全421頁、1991年4月。

張愛玲・楊絳著『浪漫都市物語（上海・香港'40s）』〔桜庭ゆみ子ほか訳、藤井省三監修〕、東京：JICC出版局、全238頁、1991年12月。

クリストファー・ニュー著『香港』〔斎藤兆史ほか訳、藤井省三監修〕、東京：平凡社、全517頁、1993年4月。

鄭義著『中国の地の底で』〔加藤三由紀・桜庭ゆみ子訳、藤井省三監訳〕、東京：朝日新聞社、全319頁、1993年10月。

夏晔虹著『纏足をほどいだ女たち』〔清水賢一郎／星野幸代訳、藤井省三監修〕、東京：朝日新聞社、全254頁、1998年6月。

李昂著『迷いの園』〔桜庭ゆみ子訳、藤井省三監修〕、東京：国書刊行会、全366頁、1999年3月。

『中国文学研究文献要覧〈近現代文学1978～2008〉』〔藤井省三監修、鄧捷／藤澤太郎編集協力〕、東京：日外アソシエーツ、全693頁、2010年5月。

1-5、事典・解説等

- 「中国文学の1998年の回顧」、デジタル百科事典『マイペディア』、東京：日立デジタル平凡社、1999年3月。
- 「中国文学」、『ブリタニカ国際年鑑2000年版』、東京：ブリタニカ・ジャパン、365～366頁、2000年4月。
- 「ノーベル賞(文学賞)」、『ブリタニカ国際年鑑2001年版』、東京：ブリタニカ・ジャパン、87～88頁、2001年4月。
- 『週刊朝日百科 世界の文学(109) 中国』〔魯迅、莫言、高行健ほか〕、東京：朝日新聞社、2001年8月26日号。
- 「衛慧」、『ブリタニカ国際年鑑2002年版』、東京：ブリタニカ・ジャパン、57～58頁、2002年4月。
- 「中国文学の現況と翻訳・研究'03」『文芸年鑑平成十六年版』、東京：新潮社、87～90頁、2004年7月。
- 「巴金」中国文学』、『ブリタニカ国際年鑑2006年版』、東京：ブリタニカ・ジャパン、105～106頁、360～361頁、2006年4月。
- 「海外文学 中国文学」、日本文芸家協会編『文芸年鑑2013』、東京：新潮社、106～109頁、2013年6月。
- 「中国文学」、『ブリタニカ国際年鑑2014年版』、東京：ブリタニカ・ジャパン、315～316頁、2014年4月。
- 「海外文学 中国文学」、日本文芸家協会編『文芸年鑑2014』、東京：新潮社、77～80頁、2014年6月。

2、期刊雑誌等掲載類

2-1、学術論文

- 「日本介绍鲁迅文学活动最早的文字」〔中国語〕、『复旦学报』社会科学版、91～92頁、1980年第2期、1980年3月。
- 「近代中国におけるバイロン受容をめぐる——章柄麟・魯迅・蘇曼殊の場合——」、『日本中国学会報』第32輯〔東京：日本中国学会〕、227～240頁、1980年10月〔日本中国学会賞受賞論文〕。
- 「翻译契诃夫作品的一点补充」〔中国語〕、『书林』第8期〔上海：上海人民

- 出版社)、49頁、1980年12月。
- 「魯迅・周作人における「ネーション」と文学——『河南』雑誌掲載論文の比較研究」、『東方学』第62輯〔東京：東方学会〕、110～125頁、1981年7月〔東方学会賞受賞論文〕。
- 「「故郷」の風景——魯迅「希望」の論理の展開をめぐって」、『中哲文学会報』第7号〔東京：東大中哲文学会〕、94～113頁、1982年6月。
- 「魯迅における「詩人像」の崩壊——「野草」中の《復讐・希望》諸章の形成をめぐって」、『日本中国学会報』第34輯、207～221頁、1982年10月。
- 「魯迅「呐喊・自序」の成立とエロシエンコ（その1）」、『颯風』第16号〔宇治：颯風の会〕、1～34頁、1983年12月。
- 「魯迅「呐喊・自序」の成立とエロシエンコ（その2）」、『颯風』第17号、1～39頁、1984年7月。
- 「ボルシェビズムの時代における人類主義——魯迅と武者小路実篤」、『月刊百科』第271号〔東京：平凡社〕、35～42頁、1985年5月。
- 「エロシエンコと「白鳥の歌」——魯迅訳『桃色の雲』への加筆をめぐって（上）」、『UP』第155号〔東京：東京大学出版会〕、22～26頁、1985年9月。
- 「エロシエンコと「白鳥の歌」——魯迅訳『桃色の雲』への加筆をめぐって（下）」、『UP』第156号、20～26頁、1985年10月。
- 「魯迅とアンデルセン」、『伊藤漱平教授退官記念中国学論集』所収〔東京：汲古書院〕、841～865頁、1986年3月。
- 「蘇曼殊『断鴻零雁記』論」、『桜美林大学中国文学論叢』第11号、110～130頁、1986年3月。
- 「魯迅の文学和哲学的起源——瓦茨和裴多菲的《希望》」〔中国語〕彭小荅译、『中國現代文学研究丛刊』1986年3期〔北京：北京出版社〕、198～209頁、1986年10月。
- 「魯迅と「さまよえるユダヤ人伝説（上）」、『月刊百科』第289号、34～39頁、1986年11月。
- 「魯迅と「さまよえるユダヤ人伝説（下）」、『月刊百科』第290号、15～22

- 頁、1986年12月。
- 「魯迅の童話的作品群をめぐって——「兎と猫・あひるの喜劇・鑄劍」小論」、『桜美林大学中国文学論叢』第13号、45～65頁、1987年3月。
- 「《復仇》和長谷川如是閑以及阿爾志跋綏夫」〔中国語〕柳青娘译、『魯迅研究動態』1987年2期〔北京：魯迅博物館〕、10～13頁、1987年3月。
- 「《鑄劍》——復仇的文学」〔中国語〕張靖摘译、『魯迅研究動態』1988年6期、73頁、1988年6月。
- 「エロシェンコの北京講演「智識階級の使命」をめぐって」、『桜美林大学中国文学論叢』第14号、164～186頁、1989年3月。
- 「共和国の興亡と中国文学」（特集「中国文学の現在——激動の半世」）、『ユリイカ』第21巻第13号〔東京：青土社〕、193～205頁、1989年10月。
- 「エロシェンコの北京講演（2）——「世界語とその文学」をめぐって」、『桜美林大学中国文学論叢』第15号、119～128頁、1990年3月。
- 「魯迅心目中的夏目漱石」〔中国語〕馬蹄疾译／于天池校訂、『魯迅研究月刊』1991年2期、35～40頁、1991年2月。
- 「エロシェンコの北京講演（3）——「現代問題」をめぐって」、『桜美林大学中国文学論叢』第16号、99～108頁、1991年3月。
- 「魯迅の早期創作和安特萊夫在中国的命運」〔中国語〕馬蹄疾译、『魯迅研究月刊』1991年3期、40～42頁、1991年3月。
- 「暗喩としての満洲国——高橋和巳「墜落」の構造」（特集：没後20年高橋和巳再読）、『文藝』第30巻第3号〔東京：河出書房新社〕、284～293頁、1991年8月。
- 「魯迅与芥川龍之介——围绕《流浪的犹太人》传说」〔中国語〕劉曉芳译、『魯迅研究月刊』1992年1期、41～44頁、1992年1月。
- 「インテリゲンチヤの端午節——魯迅と『北京風俗大全』」、『月刊しにか』第3巻第3号〔東京：大修館書店〕、36～42頁、1992年3月。
- 「中国現代文学和知識階級——兼談魯迅的《端午節》」〔中国語〕張欣整理、『中國現代文学研究叢刊』1992年3期、230～237頁、1992年9月。
- 「魯迅と芥川龍之介——「さまよえるユダヤ人」伝説をめぐって」、『月刊しにか』第2巻第9号、20～25頁、1991年9月。

- 「关于台湾的日本文化界之意识形态——佐藤春夫《女诫扇綺譚》中的殖民主义和民族主义」〔中国語〕、『外國文学研究』1992年12期〔武汉：湖北省外国文学学会〕、102～104頁、1992年12月。
- 「植民地台湾へのまなざし——佐藤春夫「女誠扇綺譚」をめぐって」(特集：アジアという視座)、『日本文学』第42卷第1号〔東京：日本文学協会〕、19～31頁、1993年1月。
- ‘On the Influence of the Legend of The Wondering Jew’on Lu Xun and Akutagawa Ryunosuke’, ed.by M. Galik, “*Chinese Literature and European Context:Proceedings of the 2nd International Sinological Symposium, Smolenice Castle*”, June 2225, 1993, published by Institute of Asian and African Studies of the Slovak Academy of Sciences,Bratislava, p93-98, 1994.
- 「中国語教室里的鲁迅——大正时期和昭和初期的汉语教育与对中国现代文学的接受」〔中国語〕王静涛译、『中國现代文学研究丛刊』1994年2期、233～249頁、1994年5月。
- 「“大東亜戦争”期における台湾皇民文学——読書市場の成熟と台湾ナショナリズムの形成」(特集「大東亜戦争」と文学)、『文學界』第49卷第3号〔東京：文藝春秋〕、164～189頁、1995年3月。
- 「鲁迅与料治朝鸣——围绕着《战争版画集》」〔中国語〕陳福康译、『鲁迅研究月刊』1996年3期、56～60頁、1996年3月。
- 「彼女はニューヨーク・ダダ(1)——胡適の恋人E・クリフォード・ウィリアムズの生涯」、『東方』第180号〔東京：東方書店〕、15～18頁、1996年3月。
- 「彼女はニューヨーク・ダダ(2)——胡適の恋人E・クリフォード・ウィリアムズの生涯」、『東方』第181号、8～18頁、1996年4月。
- 「「故郷」における希望の論理と中国国語教科書の階級論」、『国語教育相談室』1996年4月号〔東京：光村図書出版〕、1996年4月。
- 「彼女はニューヨーク・ダダ(3)——胡適の恋人E・クリフォード・ウィリアムズの生涯」、『東方』第182号、6～10頁、1996年5月。
- 「鲁迅、拜伦、章炳麟」〔中国語〕康文译、『上海鲁迅研究』7〔上海：百家

- 出版社)、190～198頁、1996年10月。
- 「「故郷」——イデオロギーとしての読書史」(特集「魯迅を読む——主要15作品の解釈と鑑賞」)、『月刊しにか』第7巻第11号、28～33頁、1996年11月。
- 「臺灣エキゾチシズム文學における敗戦の豫感:西川満『赤嵌記』論」、『東方學會創立五十周年記念東方學論集』所収〔東京:東方学会〕、1061～1077頁、1997年5月。
- 「她是纽约达达派——胡适的恋人 E. 库力弗多·韦莲司的一生」〔中国語〕王惠敏译、『魯迅研究月刊』1997年6期、50～57頁、1997年6月。
- 「香港アイデンティティの形成と香港文學の展開」、『すばる』第19巻第7号〔東京:集英社〕、204～211頁、1997年7月。
- 「戀愛中の胡適——美國女友艾迪絲·克利福德·韋蓮司與中國現代化理論的形成」〔中国語〕張季琳・大久保明男共譯、『中國文哲研究通訊』第8巻第1期〔台北:中央研究院中國文哲研究所〕、91～118頁、1998年3月。
- 「<異邦>のなかの文學者たち(2) 魯迅と明治東京——読書の都における留学体験」、『月刊しにか』第9巻第5号、104～109頁、1998年5月。
- 「<異邦>のなかの文學者たち(3) アメリカの胡適——ダダリスト画家との恋」、『月刊しにか』第9巻第6号、108～113頁、1998年6月。
- 「魯迅「父の病氣」再考——再出發としての中国伝統医学批判」、『日本中国学会創立五十年記念論文集』所収〔東京:汲古書院〕、1071～1085頁、1998年10月。
- 「魯迅「故郷」的閱讀史与中華民國公共圈的成熟」〔中国語〕鄧捷译、『中國現代文學研究叢刊』2000年1期、109～128頁、2000年1月。
- 「ニューヨーク・ダダに恋した胡適——中国人のアメリカ留学体験と中国近代化論の形成」、沼野充義編『多分野交流演習論文集——とどまる力と越え行く流れ』所収〔東大人文社会系研究科スラヴ文学研究室〕、107～144頁、2000年3月。
- 「日本の香港文學研究及『香港短篇小説選』的意義」、「小説爲何如何讓人「記憶」香港——李碧華『胭脂才口』與香港意識」、「李碧華小説中的個人意識問題」〔全て中国語〕劉桂芳譯、陳國球編『文學香港與李碧華』所

- 收〔台北：麥田出版〕、43～60頁、81～98頁、99～118頁、2000年12月。
- 〔香港アイデンティティの形成と李碧華文学〕、狭間直樹編『西洋近代文明と中華世界：京都大学人文科学研究所七十周年記念シンポジウム論集』所収〔京都：京都大学学術出版会〕、219～233頁、2001年2月。
- 〔佐藤春夫と岩波文庫『魯迅選集』〕（特集「東アジアが読む魯迅」）、『アジア遊学』第25号〔東京：勉誠出版〕、142～148頁、2001年3月。
- 〔中國文學翻譯者室伏克拉拉——日本最早的「張迷」〕〔中国語〕邵迎建譯、『香港文学』第192期〔香港〕、75～80頁、2001年12月。
- 〔“淪陷区”上海の恋する女たち——張愛玲と室伏クララ、そして李香蘭、四方田犬彦編『李香蘭と東アジア』〕所収〔東京：東京大学出版会〕、137～166頁、2001年12月。
- 〔講演記録〕村上春樹と東アジア：都市現代化のメルクマールとしての文学〕、『東京大学中国語中国文学研究室紀要』第5号、67～77頁、2002年4月。
- 〔東アジアにおける魯迅〕、『物語から小説へ』岩波講座文学第3巻所収〔東京：岩波書店〕、179～198頁、2002年10月。
- 〔台湾史における『決戦台湾小説集』——外来政権日本の国語体制〕、藤井省三／黄英哲／垂水千恵編『台湾の「大東亜戦争」：文学・メディア・文化』所収〔東京：東京大学出版会〕、19～40頁、2002年12月。
- 〔太宰治の『惜別』と竹内好の『魯迅』〕、『国文学：解釈と教材の研究』第47巻第14号〔東京：學燈社〕、56～65頁、2002年12月。
- 〔〔序章〕台湾文化のクレオール性——オランダ統治から「村上春樹現象」まで〕（10～39頁）、〔〔第1章〕清末～一九二〇年代の台湾文学——「世外民」世代にとっての漢詩と日本語〕（42～60頁）、〔〔第8章〕一九八〇年代以後の台湾文学——美麗島事件から現在まで〕（211～234頁）、〔台湾文学年表〕（X V II～X X X V）、山口守編『講座 台湾文学』所収〔東京：国書刊行会〕、2003年3月。
- 〔二〇世紀日本における現代中国文学の受容〕、『未名』第22号〔神戸：中文研究会〕、117～141頁、2004年3月。

- 「村上春樹與東亞——作爲都市現代化標誌的文學」〔中国語〕張季琳譯、『印刻』第8号〔台北〕、60～64頁、2004年4月。
- 「太宰治の『惜別』与竹内好的『鲁迅』」〔中国語〕董炳月译、『鲁迅研究月刊』2004年6期、51～57頁、2004年6月。
- 「芥川龙之介の北京体験——短篇小说「湖南的扇」和佐藤春夫「女诫扇綺譚」、陈平原・王德威編『北京：都市想像与文化记忆』所収〔北京：北京大学出版社〕、487～503頁、2005年5月。
- 「中国・香港・台湾と村上春樹」、呉密察／黄英哲／垂水千恵編『記憶する台湾』所収〔東京：東京大学出版会〕、177～195頁、2005年5月。
- 「二十世紀日本對中國現代文學的接收」〔中国語〕陳朝輝譯、『現代中文文學學報 (Journal of Modern Literature in Chinese)』vol.6.2 & 7.1〔香港：嶺南大學人文學科研究中心出版〕、219～237頁、2005年6月。
- 「村上春樹在东亚——都市现代化标志的文学」〔中国語〕、『书城』2005年9月号〔上海：三联书店〕、52、54～57頁、2005年9月。
- 'The Rise and Fall of Taipei Cinema League: Film Revolution in 1930's Modern City', Tr.by Faye Kleeman, *Journal of Modern Literature in Chinese*, v7n2, Dec.2005, the Center for Humanities Research, Lingnan University, Hong Kong, p81-92, 2005.
- 「魔術的リアリズムが描く中国農村——鄭義、莫言と大江健三郎」、尾崎文昭編『「規範」からの離脱——中国同時代作家たちの探索』所収〔東京：山川出版社〕、116～136頁、2006年1月。
- 「開往中國的村上慢船——村上春樹在中國以及中國在村上文學」〔中国語〕、梁秉鈞／許旭筠主編『東亞文化與中文文學』所収〔香港：明報出版社〕、2～24頁、2006年2月。
- 「村上春樹のなかの中国を読む (1) 転倒した恋愛「童話」——「シドニーのグリーン・ストリート」論』、『UP』第35巻第5号、47～51頁、2006年5月。
- 「村上春樹のなかの中国を読む (2) 「中国」への背信と原罪——「中国行きのスロウ・ボート」論』、『UP』第35巻第6号、30～35頁、2006年6月。
- 「村上春樹のなかの中国を読む (3) 「ジェイズ・バー」という歴史の記憶——

- 『風の歌を聴け』論』、『UP』第35巻第7号、40～44頁、2006年7月。
- 「中国のなかの村上春樹(1)台湾の村上春樹(1)」、『一冊の本』第11巻第9号〔東京：朝日新聞出版〕、32～36頁、2006年9月。
- 「中国語圏における村上春樹の受容」、『東亜』第472号〔東京：霞山会〕、10～17頁、2006年10月。
- 「中国のなかの村上春樹(2)台湾の村上春樹(2)」、『一冊の本』第11巻第10号、32～36頁、2006年10月。
- 「中国のなかの村上春樹(3)台湾の村上春樹(3)」、『一冊の本』第11巻第11号、32～36頁、2006年11月。
- 「中国のなかの村上春樹(4)香港の村上春樹(1)」、『一冊の本』第11巻第12号、33～37頁、2006年12月。
- ‘The Formation of Taiwanese Identity and the Cultural Policy of Various Outside Regimes’, in *Taiwan under Japanese colonial rule, 1895-1945: history, culture, memory*, edited by Liao Ping-hui and David Der-wei Wang, Columbia University Press, New York, p62～77, tr. by Faye Kleeman, 2006.
- 「中国のなかの村上春樹(5) 香港の村上春樹(2)」、『一冊の本』第12巻第1号、39～43頁、2007年1月。
- 「中国のなかの村上春樹(6) 中国の村上春樹(1)」、『一冊の本』第12巻第2号、40～44頁、2007年2月。
- 「中国のなかの村上春樹(7) 中国の村上春樹(2)」、『一冊の本』第12巻第3号、42～46頁、2007年3月。
- 「中国のなかの村上春樹(第8回・最終回) 中国の村上春樹(3)」、『一冊の本』第12巻第4号、42～46頁、2007年4月。
- 「魯迅と村上春樹、そしてウォン・カーウァイ(王家衛)——東アジア文学・映画における「阿Q」像の系譜」、『遠近』第16号〔東京：国際交流基金〕、66～71頁、2007年4・5月。
- 「村上春樹裡面的中國：以〈雪梨的綠街〉、〈開往中國的慢船〉、《聽風的歌》三篇小説爲主」、『台湾文学学報』第10期〔台北：政治大学〕、3～17頁、2007年6月。

- 「日本の香港文学——從 10 年来研究与介紹的變遷談起」、『香港文学』271 期〔香港〕、13～17 頁、2007 年 7 月。
- 「台湾人「新感覺派」作家劉吶鷗における 1927 年の政治と“性事”——日本短篇小説集『色情文化』の中国語訳をめぐって」、亜東關係協会編『殖民化與近代化——檢視日治時代的台灣：2007 年台日學術交流國際會議論文集』所収〔台北：外交部出版〕、126～139 頁、2007 年 12 月。
- 「中国の村上チルドレンと村上春樹小説の「家族の不在」——衛慧・安妮・ 베이ビーにおける「小資」文学の展開をめぐって」、『ユリイカ』第 40 卷第 3 号、168～177 頁、2008 年 3 月。
- 「村上春樹裡面的中國」〔中国語〕葉蕙譯、『蕉風 (Bulan Chao Foon)』499 期〔マレーシア：Johor〕、7～16 頁、2008 年 4 月。
- 「日本におけるシンガポール映画の受容」、『アジア遊学』第 117 号、194～205 頁、2008 年 12 月。
- 「村上春樹の中国語訳——日本文化の土着化と中国本土文化の變革」、北京對外貿易学院『日語學習与研究』編輯委員會編『日語學習与研究』第 140 号〔北京：《日语学习与研究》杂志社〕、111～117 頁、2009 年 2 月。
- 「『1Q84』のなかの「阿Q」の影——魯迅と村上春樹」、『文學界』第 63 卷第 8 号、228～231 頁、2009 年 8 月。
- 「青豆と「阿Q正伝」の亡霊たち——村上春樹『1Q84』の中の魯迅および中国の影」、ジェイ・ルービンほか共著『1Q84 スタディーズ』BOOK 1 所収〔東京：若草書房〕、24～38 頁、2009 年 11 月。
- 「村上春樹と中国——または『1Q84』に潜む「阿Q正伝」の亡霊たち」、『学士会報』第 880 号〔東京：学会〕、84～88 頁、2010 年 1 月。
- 「魯迅的「孔乙己」与芥川龙之介的「毛利先生」——围绕清末读书人和大正时期英语教师展开的回忆故事」〔中国語〕于桂玲译、上海魯迅纪念馆編『上海魯迅研究』2010 年春号〔上海：学林出版社〕、71～85 頁、2010 年 2 月。
- 「現代シンガポール家族像における非婚とセックスレス：陳華彪小説集『スーパー・チェーン・ボーイの物語』と梁智強監督映画『私のお役所時代』をめぐって」、『中国語中国文化』〔日本大学大学院文学研究科中

- 国学専攻紀要〕第7号、184～193頁、2010年3月。
- 〔魯迅与芥川龙之介：『呐喊』小説の叙述模式以及故事结构的成立〕〔中国語）、『扬子江评论』总21期、17～22頁、2010年4月。
- 〔日本文化界與李昉の對話——深廣の日台文化交流〕〔中国語〕張季琳譯、『中國文哲研究通訊』第79期〔台北：中央研究院〕、121～140頁、2010年9月。
- 〔中国的『挪威的森林』〕〔中国語〕張明敏譯、『聯合文学』314期〔台北：聯合文学出版社〕、54～59頁、2010年12月。
- 〔中国高度經濟成長期の「人世」と「人性」を映し出す両面鏡——「東アジアと松本清張」論序説〕、『松本清張研究』第12号〔北九州：北九州市立松本清張記念館〕、76～91頁、2011年3月。
- 〔村上春樹《1 Q 84》中《阿Q正伝》的亡靈們〕〔中国語）、『紹興文理学院学报』第31卷第5期、8～12頁、2011年9月。
- 〔殖民地臺灣的下村湖人——文教官僚的挫折和教養小説作家的誕生〕〔中国語〕張季琳譯、『中國文哲研究通訊』第21卷第3期〔台北：中央研究院中國文哲研究所〕、171～177頁、2011年9月。
- 〔魯迅文学永遠活在日本人心底〕〔中国語）、『中国社会科学院報』7号〔北京：中国社会科学院〕、7頁、2011年9月20日。
- 〔臺北電影聯盟的興衰：一九三〇年代現代都市的電影界革命〕〔中国語〕張季琳譯、『中國文哲研究通訊』第21卷第4期〔台北：中央研究院中國文哲研究所〕、105～119頁、2011年12月。
- 〔侯孝賢が台湾百年史映画を創る時：『百年恋歌（最好的時光）』における歴史の記憶〕、前野みち子／星野幸代／西村正男／薛化元編『侯孝賢の詩学と時間のプリズム』所収〔名古屋：あるむ〕、35～59頁、2012年1月。
- 〔電影香港與李碧華——論《霸王別姬》、《潘金蓮之前世今生》、《川島芳子》〕、梁秉鈞ほか編『香港文学與電影』所収〔香港：香港公開大学出版社〕、146～162頁、2012年1月。
- 〔「レキシントンの幽霊」におけるアジア戦争の記憶——村上春樹“デタッチメント”時代の終わりをめぐって〕、田中実／須貝千里編『文学が教育にできること：「読むこと」の秘鑰』所収〔東京：教育出版〕、312～329頁、2012年3月。

- 「台湾映画『海角七号』におけるメルヘンの論理：西川満の日本引き揚げ後第一作「青衣女鬼」との比較研究」、『中国 21』 vol.36〔愛知：愛知大学現代中国学部〕、135～150頁、2012年3月。
- 「台湾電影『海角七号』中的童話理論——和西川満日本撤退後第一作「青衣女鬼」的比較研究」〔中国語〕燕璐譯、『文史台湾學報』第4期〔台北：国立台北教育大学台湾文化研究所〕、9～23頁、2012年6月。
- 「松本清張の私小説と魯迅「故郷」：「父系の指」から「張込み」への展開をめぐって」、『文學界』第66巻第6号、238～251頁、2012年6月。
- 「村上春樹与华语圈——日本文学跨越国界之时」〔中国語〕賀昌盛編譯、『當代文壇』〔四川：四川省作家協會〕、19～23頁、2012年12月。
- 「论村上春樹的汉语翻译——日本文化本土化与中国本土文化的变革」〔中国語〕賀昌盛編譯、『揚子江評論』2012年8月号、46～51頁。
- 「魯迅戀愛小説における空白の意匠：「愛と死（原題：傷逝）」と森鷗外「舞姫」との比較研究」、『東方學』第125輯、1～20頁、2013年1月。
- 「魯迅与刘呐鸥：“战间期”在上海的《猗山艳史》、《春蚕》电影论争」〔中国語〕燕璐譯・王志文校、『現代中文學刊』第22期、44～57頁、2013年1月。
- 「中国文学と映画：文化大革命を“活きる”——余華の小説『活きる』と張芸謀の映画『活きる』」、野崎勲編『文学と映画のあいだ』所収〔東京：東京大学出版会〕、129～147頁、2013年6月。
- 「魯迅「故郷」と松本清張における「父系の指」から「張込み」への展開」（特集：国際共同研究、東アジアにおける松本清張作品の受容）、『松本清張研究』14、112～128頁、2013年。
- 「松本清張の初期小説《父系之手指》与魯迅作品《故乡》——从贫困者“弃”乡的“私小説”到推理小説的展开」〔中国語〕林敏洁译、『魯迅研究月刊』2014年3期、24～33頁、41頁、2014年3月。
- 「台湾文学史概説」〔中国語〕賀昌盛译、『華文文学』第121期〔広東：汕头大学〕、72～84頁、2014年4月。
- 「莫言が描く中国の村の希望と絶望——「花束を抱く女」等の帰郷物語と魯迅および『アンナ・カレーニナ』」、『文學界』第68巻第5号、232～276頁、2014年5月。

- 「中国語圏における村上春樹」、菅野昭正編『村上春樹の読みかた』所収〔東京：平凡社〕、165～218頁、2012年7月。
- 「西川満の戦後創作活動と近代日本文学史における第2期台湾ブーム」、張季琳主編『日本文学における台湾（中央研究院人文社會科學研究中心專書63）』所収〔台北：中央研究院人文社會科學研究中心亞太區域研究專題中心〕、1～39頁、2014年10月。
- 「夏目漱石『坊っちゃん』から魯迅「阿Q正傳」への展開：牧卷次郎「満州問題」・「夜の支那人」事件と『幻灯事件』との照合および「清」と「吳媽」という女性像の系譜」、『日本中国学会報』第66輯、267～282頁、2014年10月。
- 「魯迅と莫言之間の歸郷故事系譜——以托爾斯泰《安娜・カ列ニ娜》爲輔助線來比較(上)」〔中国語〕林敏洁译、『揚子江评论』第5期、25～36頁、2014年10月。
- 「魯迅と莫言之間の歸郷故事系譜——以托爾斯泰《安娜・カ列ニ娜》爲輔助線來比較(下)」〔中国語〕林敏洁译、『揚子江评论』第6期、19～31頁、2014年12月。
- 「魯迅與莫言之間的歸郷故事系譜——以托爾斯泰《安娜・カ列ニ娜》爲輔助線」、『新地文學』30期〔台湾新北市：華藝數位股份有限公司〕、96～147頁、2014年12月。
- 「村上春樹と中国——『ノルウェイの森』から『1Q84』まで」、桜美林大学・北京大学學術交流論集編集委員会編『教育・環境・文化から考える日本と中国』所収〔東京：はる書房〕、291～306頁、2014年12月。
- 「魯迅「傷逝」中の留白匠意——「傷逝」与森鷗外「舞姫」的比較研究」〔中国語〕林敏洁译、『南京师范大学文学院学报』第4期、1～10頁、2014年12月。
- 「松本清張と魯迅：「骨壺の風景」と『朝花夕拾』とにおける幼少年期の回想（特集 松本清張と故郷）」、『松本清張研究』第15号、121～129頁、2014年。
- 「莫言と村上春樹：あるいは天安門事件の『アンナ・カレニナ』」、『れにくさ = Реникса：現代文芸論研究室論集』第5号〔特集 北アメ

- リカの文学：柴田元幸教授退官記念号)、137～151頁、2014年。
- 「莫言与鲁迅之间的归乡故事系谱——以托尔斯泰《安娜·卡列尼娜》为辅助线来研究」〔中国語〕、『小説評論』2015年3期、93～104頁、2015年5月。
- 「西川満の戦後創作活動と近代日本文學史上第二波台湾熱潮」〔中国語〕張季琳譯、『中國文哲研究通訊』第25卷第3期、141～165頁、2015年9月。
- 「鲁迅恋愛小説中の留白匠意——《伤逝》と森鷗外《舞姫》の比較研究」〔中国語〕林敏洁譯、楊偉主編『文化・越境・表象——中日文化交流研究』所収〔重慶：西南師範大學出版社〕、2～23頁、2016年1月。
- 「魯迅と夏目漱石および村上春樹：坊っちゃん・阿Q・牛河利治の系譜(付録・北京で魯迅に会い損ねた芥川龍之介)」〔二松學舎大學人文学會講演録〕、『二松學舎大學人文論叢』第98輯、1～37頁、2017年3月。
- 「鲁迅と佐藤春夫——两位作家間の互譯と交往」〔中国語〕、『社会科学輯刊』2017年5期〔沈陽：遼寧省社會科學院〕。
- 「東山彰良《流》中の台灣表象」〔中国語〕王姿雯譯、『聯合文學』第392号〔台北：聯合文學出版社〕、94～99頁、2017年6月。
- 「鲁迅文學日語翻譯思考——以竹内好的《吶喊》爲中心」〔中国語〕、『華東師範大學學報(哲學社會科學版)』2018年1期〔上海：華東師範大學出版社〕、73～78頁、2018年1月。

2-2、研究報告・會議録・序文・予稿・インタビュー等

- 「創刊の辞」、『東京大學中国語中国文學研究室紀要』第1号、1～4頁、1998年4月。
- 「“知のたくらみ”としての文學史——陳平原と魯迅・胡適を語る」、『NHKテレビ中国語會話』1993年1月号。
- 「東アジアの現代中国文學研究者が大集合すれば——12月開催の東大シンポジウム「東アジアにおける魯迅の受容」」、『東方』第219号、2～5頁、1999年5月。
- 「佐藤春夫『霧社』解説」、佐藤春夫著『霧社』(日本植民地文學精選集台灣編5)、東京：ゆまに書房、1～6頁、2000年9月。

- 「〔インタビュー〕日中国交回復三〇周年記念連続インタビュー 日本と中国の二一世紀(2) 東アジアの同時代を映して——変わりゆく中国語文学」、『東方』第262号、2～7頁、2002年12月。
- 「せっかちな読書から東アジア比較文化研究へ——私の村上春樹体験史」、『共同研究 東アジアと村上春樹通信』第2号、2005年8月。
- 「国際ペン WiP (獄中作家) 委員会報告」、『P.E.N.』第371号〔東京：日本ペンクラブ発行〕、11～13頁、2005年8月。
- 「二十世紀東亜都市文化的相互越境——東京與南方漢語圏の三座城市：上海、台北、香港」〔「戦前南方城市與東京的文化交流」専号序文〕、『現代中文文学学報 (*Journal of Modern Literature in Chinese*)』vol.7-no.2, Dec. 2005, the Center for Humanities Research, Lingnan University, Hong Kong, p9-25, Dec. 2005.
- 「追悼 丸山昇先生と私」、『東方学』第114輯、193～195頁、2007年7月。
- 「丸尾常喜先生を偲ぶ (追悼 丸尾常喜先生)」、『東方学』第116輯、270～272頁、2008年7月。
- 「第8回アジア学術会議 Special Session について」、『学術の動向』第13巻8号、76～77頁、2008年8月。
- 「第8回アジア学術会議に関する所感」、『学術の動向』第13巻第8号、59～61号、2008年8月。
- 「〔序〕植民地台湾における下村湖人——文教官僚の挫折と教養小説作家の誕生」、張季琳著『台湾における下村湖人——文教官僚から作家へ』所収〔東京：東方書店〕、i - viii頁、2009年3月。
- 「東アジアにおける「阿Q」像の系譜：夏目漱石、魯迅そして村上春樹」、『法政大学国際日本学研究センター The Newsletter』第11号、15～16頁、2009年10月。
- 「中国“70后”的村上春樹論——写给《后现代语境中的村上春樹》」、杨炳菁著『后现代语境中的村上春樹』所収〔北京：中央编译出版社〕、1～4頁、2009年9月。
- 「Report〕SCA Special Session——Pop Culture in Asia - , The Science Council of Japan、2010年8月。

- 「关于鲁迅、当代大陸和台湾文学及其他——藤井省三教授与南京大学研究生的坐谈」〔中国語〕吴俊编、『东吴学术』2010年8期。
- 「〔序文〕寄語于桂玲『渡辺淳一情愛文学論』」、于桂玲著『渡辺淳一情愛文学論』所収〔北京：中国社会科学出版社〕、1～5頁、2010年10月。
- 「中国における松本清張」、北九州市立松本清張記念館企画「松本清張と東アジア」展用展示会場パネル・同図録、53頁、2010年12月1日～2011年3月31日。
- 「中国現代文学研究の方向〔王徳威／陳平原／藤井省三鼎談〕」、『中国現代文学』第25期、199～216頁、2014年6月。
- 「〔インタビュー〕巡遊東亞華語圈・寻找“认同”的出路——专访藤井省三教授」〔中国語〕、访问者：谢惠贞、郑文惠／颜健富主编『革命・启蒙・抒情：中国近现代文学与文化研究学思录』（増訂本）、北京：三联书店、223～236頁、2014年7月。
- 「中国現代文学研究の方向〔陳平原／王徳威／藤井省三鼎談〕」、『学术月刊』第46号、161～170頁、2014年8月。
- 「〔インタビュー〕翻訳者から見た「故郷」」、『中学校 国語教育相談室』第75号、5～8頁、2014年9月。
- 「中国現代文学の研究および教学：中・米・日における現状と行方（特集「政治・文化からみた新たな中米関係）」〔藤井省三／陳平原／王徳威鼎談〕、『中国21』vol.42、35～64頁、2015年3月。
- 「经由文学理解现代中国——藤井省三教授访谈」〔中国語〕贺昌盛访问／整理、『扬子江评论』第52期、14～21頁、2015年6月。
- ‘Murakami Haruki in East Asia, in “*Transactions of the International Conference of East Asian Studies*”, No.LX 2015 〔『国際東方学会会議紀要』第60冊〕、東京：東方学会、PP126-130、Jan.2016.
- 「为陈朝辉博士著『文学者の革命——论鲁迅与日本无产阶级文学』作序」〔中国語〕、陈朝辉著『文学者の革命：论鲁迅与日本无产阶级文学』所収〔北京：光明日报出版社〕、1～3頁、2016年8月。
- 「先學を語る：丸山昇先生」〔竹田晃／佐治俊彦／尾崎文昭／藤井省三／長堀祐造／及川淳子〕、『東方学』第133輯、96～133頁、2017年1月。

「黒田真美子教授のガリ勉文学少女時代」、『日本文学誌要』〔法政大学国文学会〕95号、28～29頁、2017年3月。

「^{しろすずき}“白芒花”から“幻の黄金の公孫樹”への回帰」、「從「白芒花」到「夢幻の黄金公孫樹」的回歸」、『2017黄金の公孫樹——日台作家東京会議／台日作家東京会議』所収、6～9頁、2017年11月3日。

2-3、文芸評論等〔書評・文芸評論・映画紹介・解説など〕

「〔書評〕“The Romantic Generation of Modern Chinese Writers” (Harvard East Asian Series 71,1973) by Leo Ou-fan Lee——(李欧梵)を評す」、『東方法学』第53輯、128～134頁、1977年1月。

「檜山久雄氏の「〔書評〕『ロシアの影』」を読んで」、『中国研究月報』第451号〔東京：中国研究所〕、35～36、39頁、1985年9月。

「コラム中国文学の現在：百年の中国文学」、『ユリイカ』第21巻第1号、262～263頁、1989年1月。

「コラム中国文学の現在：共和国の興亡と文学 巴金・柏楊」、『ユリイカ』第21巻第2号、256～257頁、1989年2月。

「コラム中国文学の現在：中国のガルシア・マルケス 莫言」、『ユリイカ』第21巻第3号、248～249頁、1989年3月。

「コラム世界の文学・中国：食うべき小説——傷痕文学から阿城へ」、『ユリイカ』第21巻第5号、254～255頁、1989年4月。

「コラム世界の文学・中国：日米関係としての中国文学——林語堂」、『ユリイカ』第21巻第6号、252～253頁、1989年5月。

「コラム世界の文学・中国：智識階級の再生——五四運動七〇周年」、『ユリイカ』第21巻第7号、278～279頁、1989年6月。

「コラム世界の文学・中国：“真犯人”を探せ 魯迅「故郷」のミステリー」、『ユリイカ』第21巻第9号、280～281頁、1989年7月。

「コラム世界の文学・中国：中国農村の“驚異的なる現実”——鄭義」、『ユリイカ』第21巻第10号、276～277頁、1989年8月。

「コラム世界の文学・中国：人民文学から通俗文学へ——趙樹理と馮驥才」、『ユリイカ』第21巻第11号、242～243頁、1989年9月。

- 「現代中国文学の源流：復讐の剣／魯迅」(76～89頁)、「小説 現代中国文学の新鋭：秋の水／莫言」(180～192頁)、「現代中国文学の系譜：共和国の興亡と中国文学」(193～205頁)、「〔資料〕現代中国年表」(275～283頁)、「コラム世界の文学・中国：特集号の中国イメージ——昭和元年『改造』『現代支那号』」(289～299頁)、『ユリイカ』第21巻第13号(特集：中国文学の現在－激動の半世紀)、1989年10月。
- 「コラム世界の文学・中国：人力車の北京——老舎」、『ユリイカ』第21巻第14号、266～267頁、1989年11月。
- 「コラム世界の文学・中国：再興智識階級のイデオロギー——劉再復」、『ユリイカ』第21巻第15号、264～265頁、1989年12月。
- 「見えない中国農村の姿／都市化の中の日本人には“闇”／失われたかつての共感／見透かす眼、文芸に期待」、『読売新聞』1990年1月22日。
- 「コラム世界の文学・中国：“盲詩人”の予見－エロシエンコ」、『ユリイカ』第22巻第1号、258～259頁、1990年1月。
- 「コラム世界の文学・中国：国家論としての恋愛小説 銭鍾書『困城』」、『ユリイカ』第22巻第2号、236～237頁、1990年2月。
- 「コラム世界の文学・中国：ある抵抗詩人 北島」、『ユリイカ』第22巻第3号、244～245頁、1990年3月。
- 「コラム世界の文学・中国：旗袍の上海 茅盾と一九三〇年代」、『ユリイカ』第22巻第4号、248～249頁、1990年4月。
- 「コラム世界の文学・中国：魔都の無名氏——羅信耀と『北京風俗大全』」、『ユリイカ』第22巻第6号、280～281頁、1990年5月。
- 「コラム世界の文学・中国：^{フォルモーサ}美麗島の愛と性——女流文学者李昂」、『ユリイカ』第22巻第7号、256～257頁、1990年6月。
- 「Essais：中国、砕ける——開高健と老舎の死」(200～209頁)、「コラム世界の文学・中国：ロマンスは東西文明論——張愛玲の上海・香港」(262～263頁)、『ユリイカ』第22巻第8号、1990年7月。
- 「コラム世界の文学・中国：ノヴェルとしての『古代服飾研究』—沈従文」、『ユリイカ』第22巻第9号、234～235頁、1990年8月。
- 「コラム世界の文学・中国：失われたチベット——ザシダワ」、『ユリイカ』

- 第22巻第10号、232～233頁、1990年9月。
- 「コラム世界の文学・中国：少年ボルシェビキと美しき人民共和国——王蒙」、『ユリイカ』第22巻第11号、250～251頁、1990年10月。
- 「詩人たちの共和国——魯迅から老木まで」（特集：世界の詩は、いま——80年代の光と影）、『現代詩手帖』第33巻第10号〔東京：思潮社〕、66～73頁、1990年10月。
- 「『読書』の読書：中国文化界の八〇年代、九〇年代を読む」、『IS』第50号〔東京：ポラ文化研究所〕、71～72頁、1990年12月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：専制体制化の魔術的リアリズム——張志忠『莫言論』」、『ユリイカ』第23巻第1号、234～235頁、1991年1月。
- 「中国のルーツ文学冬の時代 農民の心性を描いた作家消息絶つ」、『読売新聞』1991年3月11日夕刊。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：天安門広場の不条理劇——高行健『逃亡』」、『ユリイカ』第23巻第4号、238～241頁、1991年4月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：上海三〇年代の魯迅——井上ひさし『シャンハイムーン』を観て」、『ユリイカ』23-5、252～253頁、1991年5月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：「窮境」の文学——韓少功『爸爸』」、『ユリイカ』第23巻第7号、228～229頁、1991年7月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：香港映画『レッド・ダスト』のモデルたち——張愛玲と胡蘭成」、『ユリイカ』第23巻第8号、232～233頁、1991年8月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：李香蘭と張愛玲——一九四五年七月の上海納涼会」、『ユリイカ』第23巻第11号、222～225頁、1991年10月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：鉛筆の恋愛、自動車の共和国——胡適生誕百周年によせて」、『ユリイカ』第23巻第13号、274～277頁、1991年12月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：^{チャイナドレス} 塀の中の旗袍ショー——

- 張芸謀「紅夢」と蘇童「妻妾成群」、『ユリイカ』第24巻第1号、246～247頁、1992年1月。
- 「世界の文学はいま……莫言：中国の村と軍から出てきた魔術的リアリズム」、『海燕』1992年4月号〔東京：福武書店〕、130～142頁。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：不安の街の少年たち 台湾映画『牯嶺街少年殺人事件』」、『ユリイカ』第24巻第6号、234～235頁、1992年6月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：文明崩壊期の張愛玲リバイバル」、『ユリイカ』第24巻第8号、236～237頁、1992年8月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：黄色い大地へのまなざし——陳凱歌の新作映画をめぐって」、『ユリイカ』第24巻第10号、248～251頁、1992年10月。
- 「李昂——台湾のフェミニズム文学」、『海燕』第11巻第11号、150～163頁、1992年11月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・アップ中国：台湾電影^{えいが} 俠客の夢——徐小明監督 天幻城市」、『ユリイカ』第24巻第12号、252～253頁、1992年12月。
- 「文学と映像の中の家——改革、開放時代の中国社会」、『世界』第575号〔東京：岩波書店〕、281～285頁、1992年12月。
- 「北島——中国エミグラント文学の旗手」、『Wombat』第1巻第2号〔東京：講談社〕、98～99頁、1992年。
- 「地の底から現れた作家——鄭義」、『NHK テレビ中国語会話』1993年2月号。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：中国から来たジゴロたち——柳町光男監督「愛について、東京」、『ユリイカ』第25巻第2号、286～287頁、1993年2月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：戦後史としてのメロドラマ——謝晋監督『乳泉村の子』」、『ユリイカ』第25巻第4号、214～215頁、1993年4月。
- 「「恨み許しても歴史忘れるな」、『毎日新聞』1993年4月5日〔書評：李昂』施

明德前伝]】。

「〔読書ノート〕『夫殺し』」、『文學界』第47巻第5号〔東京：文藝春秋社〕、153頁、1993年5月。

「フェミニズム作家李昂のまなざし／90年代の日本人に／台湾の過去と現在とを／きつと解きあかしてくれる」、『読売新聞』1993年5月18日夕刊。

「読書ノート『南玲北梅』」、『文學界』第47巻第6号、169頁、1993年6月。

「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：紅い唐辛子が訴訟に立つとき——張芸謀監督「秋菊の物語」」、『ユリイカ』第25巻第6号、248～251頁、1993年6月。

「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：上海女優伝説——関錦鵬監督「阮玲玉（ロアン・リヌイ）」によせて」、『ユリイカ』第25巻第7号、240～243頁、1993年7月。

「パリの中国エミгранト作家たち——鄭義・老木・北島・高行健の現在」、『文學界』第47巻第11号、164～178頁、1993年11月。

「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：映画の中の京劇——寧瀛監督『北京好日』」、『ユリイカ』第25巻第12号、230～231頁、1993年12月。

「〔辺境〕からの視点／新鮮な比較文学論」、『読売新聞』1994年1月24日号〔書評：王徳威『小説中国——晩清到当代的中文小説』台湾：麦田出版、1993年刊〕。

「インタビュー：中国現代史の暗い真実を映画で暴露した田壮壮」、『芸術新潮』第45巻第2号〔東京：新潮社〕、75～79頁、1994年2月。

「コラム ワールド・カルチュア・マップ中国：中国映画界の貴種流離譚——田壮壮監督「盗馬賊」「青い凧」をめぐって」、『ユリイカ』第26巻第2号、216～219頁、1994年2月。

「〔我的故事（わたしの物語）〕——瓊瑤著／近藤直子訳『壮大な虚構「中華民国」を炙る陰画』」、『文學界』第48巻第2号、262～267頁、1994年2月。

「世紀末の植民地都市／腐敗と欲望の街香港」、『読売新聞』1994年3月21日〔書評：施叔青著、藤井省三訳『ヴィクトリア倶楽部』東京：国書

- 刊行会、2002年12月刊〕。
- 「風の街北京の悲しい「青い風」——田壮壮「青い風」、『イメージフォーラム』1994年4月号〔東京：ダゲレオ出版〕、40～41頁。
- 「コラム・ワールド・カルチャー・マップ中国：ある台湾芸人の伝記——會郁雯と侯孝賢の『戲夢人生』」、『ユリイカ』第26巻第4号、260～261頁、1994年4月。
- 「夜の租界を支配した中国マフィアの元祖——〔書評〕梅臻・韶菩共著『杜月笙——上海の顔役』」、『読売新聞』1994年5月16日。
- 「コラム・ワールド・カルチャー・マップ中国：横浜マイクと台湾殺し屋との友情——林海象監督『我が人生最悪の時』」、『ユリイカ』第26巻第6号、268～269頁、1994年6月。
- 「二家族描く大河小説／今世紀の中国史活写：〔書評〕陳忠実『白鹿平原』」、『読売新聞』1994年7月18日。
- 「コラム・ワールド・カルチャー・マップ中国：中国からのロマンティックな逃避——陳凱歌監督『さらば、わが愛』」、『ユリイカ』第26巻第8号、270～271頁、1994年8月。
- 「二大ヒーローの類型／近代中国でどう展開：書評——錢理群『豊饒なる苦悩』」、『読売新聞』1994年9月12日。
- 「〔映画紹介〕謝晋監督『犬と女と刑老人』」、『THIS IS 読売』1994年9月号〔東京：読売新聞社〕。
- 「コラム・ワールド・カルチャー・マップ中国：文革の虚妄を告発する辺境の村の物語——謝晋監督『犬と女と刑老人』」、『ユリイカ』第26巻第10号、342～343頁、1994年10月。
- 「台湾外省人の屈折を虚無的に描く短編集：書評——張大春^{スージー}『四喜の憂国』」、『読売新聞』1994年11月7日。
- 「コラム・ワールド・カルチャー・マップ中国：母の夫殺しと孝子の敵討」、『ユリイカ』第26巻第12号、304～305頁、1994年12月。
- 「すばる海外文学事情 ノーベル賞と中国文壇」、『すばる』第17巻第1号〔東京：集英社〕、410頁、1995年1月。
- 「異文化との接触通じ／香港の現実見つめる：書評——也斯『記憶の都市、

- 虚構の都市』、『読売新聞』1995年1月16日。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：台北の墮天使たち——蔡明亮監督『青少年哪吒』、『ユリイカ』第27巻第3号、346～347頁、1995年2月。
- 「浸透目立つ台湾意識／戦前期文学にも高い関心／「地域主義」大陸と共通』、『読売新聞』1995年2月17日夕刊。
- 「県当局への農民暴動／政治に近づいた小説：書評——莫言『怒りのニンニク』、『読売新聞』1995年3月13日。
- 「すばる海外文学事情 “台湾意識”と伝記研究』、『すばる』第17巻第4号、312頁、1995年4月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：台北・外省一家の“飲食男女”——李安監督『恋人たちの食卓』、『ユリイカ』第27巻第4号、328～329頁、1994年4月。
- 「戦前台湾文化の裏面史：〔書評〕『陳逸松回想録』、『読売新聞』1995年5月19日。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：虚構の都市のラブ・ストーリー——王家衛『恋する惑星』、『ユリイカ』第27巻第7号、322～323頁、1994年6月。
- 「〔書評〕文革期の庶民の愛憎描く：葉兆言『去りゆく影』、『読売新聞』1995年7月23日。
- 「台北の新人類を描き話題：書評——朱天文『荒人の手記』、『読売新聞』1995年9月4日。
- 「〔海外文学展望〕国家——中国文学永遠の課題』、『文學界』第49巻第10号、196～197頁、1995年10月〔映画紹介：李安監督『プッシング・ハンズ（推手）』〕。
- 「35歳からのサクセス物語：書評——周励『マンハッタンの中国女性』、『読売新聞』1995年11月26日。
- 「〔書評〕夏曉虹『晚清文人婦女観』、『読売新聞』1995年11月26日。
- 「ポスト鄧小平時代の中国文学：亡命の旅路の果てから：鄭義／抑圧の下の魔術的現実：莫言／車椅子の静かな夢想家：史鉄生」（特集「中国現

- 代文学の旗手」連続インタビュー)、『すばる』第18巻第5号、146～151頁、1996年5月。
- 「革命闘争に捧げた父母の半生記：書評——張抗抗『赤い嵐』、『読売新聞』1996年5月12日。
- 「世界が注目する作家の全体像：書評——賀立華・楊守森編『莫言研究資料』、『読売新聞』1996年7月14日。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：北京の自転車と警官——寧瀛『スケッチ・オブ・Peking』、『ユリイカ』第28巻第8号、278～279頁、1996年7月。
- 「植民地下の作家の軌跡：書評——林至潔訳『呂赫若全集』、『読売新聞』1996年9月22日。
- 「北京寂寞——四合院共同体と“単位”共同体』、『へるめす』1996年9月号〔東京：岩波書店〕。
- 「中国映画史生きた白楊／抗日期のスター、演技派へ脱皮』、『朝日新聞』1996年10月2日。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ香港：パートナーは期限切れの日に替わる——王家衛『天使の涙』、『ユリイカ』第28巻第12号、258～259頁、1996年10月。
- 「〔海外文学展望〕証言すべき周金波の死』、『文學界』第50巻第10号、270～271頁、1996年10月。
- 「〔書評〕陳忠実著『白鹿原』(上・下)』、『日本経済新聞』1996年11月3日朝刊。
- 「すばる海外文学事情 中国』、『すばる』第18巻第12号、284～285頁、1996年12月。
- 「〔書評〕文革の実体、赤裸々に記録』、『日本経済新聞』1997年2月16日朝刊〔書評：馬波著、和田武司・多田佳子訳『老鬼—わが青春の文化大革命』東京：集英社、1996年12月刊〕。
- 「比較教育学に基づく論考：書評——桂勤『中日両国における伝統儒教と近代教育』、『読売新聞』1997年2月23日。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ台湾：地下鉄のない街、台北——楊徳昌監督『カップルズ』、『ユリイカ』第29巻第3号、326～327頁、

- 1997年3月。
- 「〔総特集:20世紀を読む〕中国」、『ユリイカ』第29巻第5号、199～219頁、1997年4月。
- 「上海の梁山泊——光晴、魯迅、内山完造」(特集「金子光晴アジア漂流」)、『太陽』第35巻第4号、81～84頁、1997年4月。
- 「〔Cinema Review〕チアン・ウエン作「太陽の少年」」、『へるめす』第66号、173～175頁、1997年5月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ台湾:受験生誘拐のメルヘン——陳玉勳監督『熱帯魚』」、『ユリイカ』第29巻第9号、340～341頁、1997年7月。
- 「香港アイデンティティの形成と香港文学の展開」(特集「香港:中華文明の現在」)、『すばる』第19巻第7号、204～211頁、1997年7月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ香港:日本人の「安直な、まなざし——『香港大夜総会』渡邊孝好監督」」、『ユリイカ』第29巻第10号、276～277頁、1997年8月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国:血の記憶——ドキュメンタリー『天安門』」、『ユリイカ』第29巻第12号、274～275頁、1997年12月。
- 「李昂の政治小説と女性政治家」、『すばる』第19巻第12号、316頁、1997年12月。
- 「映画の中のチベット問題『セブン・イヤーズ・イン・チベット』」、『毎日新聞』1997年12月25日。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国:大理・白族から出てきた天才舞踏家——楊麗萍監督『火の鳥』」、『ユリイカ』第30巻第1号、308～309頁、1998年1月。
- 「〔対談〕中国、そして游民たちの文学をめぐる」〔藤井省三×茅野裕城子対談〕、『すばる』第20巻第2号、154～171頁、1998年2月。
- 「中国の路上にて〔芒克インタビュー〕」〔芒克講演、藤井省三インタビュー〕、『すばる』第20巻第3号、170～179頁、1998年3月。
- 「中国映画祭の楽しみ」、守屋宏則編著『中国・ひと・くに・ことば』所収

- 〔東京：朝日出版社〕、20～21頁、1998年4月。
- 「政治と性を大胆に描く李昂作品」、『毎日新聞』1998年4月1日。
- 「文芸復興期としての鄧小平時代」(特集「中国現代文学案内：作家たちは、いま」)、『月刊しにか』第9巻第4号、12～18頁、1998年4月。
- 「活性化する台湾文学研究——島田謹二『華麗島文学志』から河原功『台湾新文学運動の展開』まで」、『東方』第206号〔東京：東方書店〕、7～11頁、1998年4月。
- 「コラム・ワールド・カルチャー・マップ香港：大陸人の“たっぷり甘い”香港——陳可辛監督『甜蜜蜜』」、『ユリイカ』第30巻第6号、324～325頁、1998年5月。
- 「コラム・ワールド・カルチャー・マップ中国：日本人への批判と信頼——呉子牛監督『南京1937』」、『ユリイカ』第30巻第10号、290～291頁、1998年8月。
- 「〔座談会〕文学史とは何か」〔三谷邦明／渡辺守章／藤井省三ほか〕(特集「日本文学史の現在——近代的起源とジャンル」)、『文學』第9巻第4号〔東京：岩波書店〕、69～93頁、1998年10月。
- 「〔村上春樹現象〕から日劇まで」、『すばる』第20巻第12号、285頁、1998年12月。
- 「コラム・ワールド・カルチャー・マップ台湾：汚濁した河の中の台北人——蔡明亮監督『河』」、『ユリイカ』第30巻第15号、264～265頁、1998年12月。
- 「莫言の幻の“高密県東北郷”——中国魔術的リアリズムの故郷を訪ねて」、『風景』〔東京：ドゥマゴ文化村〕、150～153頁、1998年。
- 「中国／北京大学の恋愛狂詩曲」、『毎日新聞』1999年1月6日。
- 「香港アイデンティティを問う李碧華」、『毎日新聞』1999年3月10日。
- 「〔20世紀BOOKレビュー〕中国語圏の文学 上・下」、『中国新聞』1999年3月31日〔共同通信社配信〕。
- 「コラム・ワールド・カルチャー・マップ香港：女性は「楽しむほどに墮落する」?——関鍊鵬監督“Hold You Tight”」、『ユリイカ』第31巻第4号、258～259頁、1999年3月。

- 「〔徹底討論〕20世紀文学を考える」〔沼野充義、青山南、野崎愷、野谷文昭との座談会〕、『すばる』第21巻第3号、73～103頁、278～309頁、1999年3月。
- 「香港アイデンティティと香港文学」、『I feel：読書風景』1999年春号〔東京：紀ノ国屋書店〕。
- 「莫言の「酒国」への旅」、『NHK テレビ中国語会話』1999年5月号。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ香港：サービス産業の街の青春像——『メイド・イン・ホンコン』他〕、『ユリイカ』第31巻第7号、276～277頁、1999年6月。
- 「漫画で読む魯迅」、『毎日新聞』1999年7月21日。
- 「中国／文革後の空白埋めた「読書」〕、『北海道新聞』1999年7月23日。
- 「単位社会の崩壊と「別類作家」の登場〕、『新潮』第96巻第7号〔東京：新潮社〕、164～165頁、1999年7月。
- 「香港／独身女性の心理 細かに描写〕、『北海道新聞』1999年9月10日。
- 「香港／内省的なピカレスク小説〕、『毎日新聞』1999年9月29日。
- 「〔インタビュー〕「天安門」から十年——祖国と文学：鄭義」〔鄭義談、藤井省三インタビュー〕、『一冊の本』1999年10月号〔東京：朝日新聞出版〕、7～15頁。
- 「私の選ぶこの3冊・文学で知る台湾〕、『悠：月刊 haruka』1999年10月号〔東京：ぎょうせい〕、101頁。
- 「『魯迅全集』の話〕、『東方』第24号、10～11頁、1999年10月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：チベット高原の不毛な愛——『シュウシュウの季節』ジョアン・チェン監督〕、『ユリイカ』第31巻第11号、236～237頁、1999年10月。
- 「中国／初来日の莫言、次作の構想語る〕、『北海道新聞』1999年11月26日。
- 「〔書評〕今年の3冊〕、リテレール編集部『ことし読む本いち押しガイド2000』所収〔東京：メタログ〕、1999年11月。
- 「台湾／台湾の寡黙な作家〕、『毎日新聞』1999年12月8日。
- 「〔インタビュー〕幼少期の孤独な生活が想像力を与えてくれた」〔莫言談、藤井省三インタビュー〕、『世界』第670号、199～204頁、2000年1月。

- 「中国映画に見る都市の現在」、『東京新聞』2000年1月26日。
- 「〔文学のひろば〕魯迅のメディア都市明治東京留学体験」、『文學』第1巻第1号、78～80頁、2000年2月。
- 「〔書評〕『成長如蛻』『被雨淋湿的河』『是誰在深夜說話』」、『I feel: 読書風景』2000年春号。
- 「〔書評〕劉傑著『中国人の歴史観』」、『北海道新聞』2000年2月13日。
- 「中国／魯迅をめぐる」、『毎日新聞』2000年2月24日。
- 「台湾 魅惑の文学的世界」、『月刊オルタ: Alternative』2000年3月号〔東京: アジア太平洋資料センター〕、6～7頁。
- 「中国／魯迅が紹介した挿絵画家」、『北海道新聞』2000年4月14日。
- 「〔対談〕問い直す近代（この本を読もう！——現代を読み解くための古典ガイド）」〔藤井省三／長崎暢子／板垣雄三〕、『世界』第675号、182～191頁、2000年5月。
- 「〔書評〕韓瑞穂『異境』」、『文藝春秋』2000年6月号、398～399頁。
- 「中国人作家の“帝都”東京体験」、『アジア遊学』第13号〔東京: 勉誠出版〕、2～3頁、2000年6月。
- 「李昂の新作フェミニズム小説」、『毎日新聞』2000年7月6日。
- 「〔わが20世紀人〕魯迅／東アジア共通の古典／多様な顔持つ「革命の聖人」」、『読売新聞』2000年7月8日夕刊。
- 「20世紀——私の一冊(10): 李昂『自伝の小説』——“周縁”台湾のフェミニズム』、『創文』第422号〔東京: 創文社〕、10～13頁、2000年7月。
- 「コラム・ワールド・カルチャー・マップ中国: 英語も映画もクレイジー——張元監督『クレイジー・イングリッシュ』」、『ユリイカ』第32巻第10号、228～229頁、2000年7月。
- 「〔書評〕中国／莫言『紅樹林』」、『北海道新聞』2000年8月29日。
- 「ART NEWS 中国絵画は現在、非常村上的なものがクール!」、『芸術新潮』第51巻第9号、78～82頁、2000年9月。
- 「中国／北京にも現れた都市文学」、『毎日新聞』2000年9月21日。
- 「〔対談〕川本三郎×藤井省三——アジア映画は21世紀を牽引する」(特集アジア映画の魅力を語ろう——Power of Asian Movies)、『I feel: 読書

- 風景』第4号、4～11頁、2000年秋号。
- 「ノーベル文学賞に中国系の高行健氏／言語盗んで逃亡する極北の作家」、『朝日新聞』2000年10月13日。
- 「2000年ノーベル文学賞／極北の人高行健／国家、民族から離脱した作家」、『信濃毎日新聞』2000年10月14日ほか〔共同通信社配信〕。
- 「台湾・香港／パジャマと村上春樹」、『毎日新聞』2000年11月16日。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ台湾：意識はクラリネットの音に乗って流れる——張志勇監督『沙河悲歌（シャーは一えれじー）』」、『ユリイカ』第32巻第14号、282～283頁、2000年11月。
- 「〔書評〕今年の3冊」、『ことし読む本いち押しガイド2001』所収〔東京：メタログ〕、2000年12月。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ香港：日常の釜戸から情理と世故を積み重ねた得も言われぬふしぎな味わい——王家衛監督『花樣年華』」、『ユリイカ』第33巻第3号、264～265頁、2001年2月。
- 「東アジアが読む魯迅 序言」（特集「東アジアが読む魯迅」）、『アジア遊学』第25号、6～8頁、2001年3月。
- 「〔対談〕小倉エージ ウォン・カーウァイと香港アイデンティティの形成をめぐる」、『キネマ旬ムックフィルムメーカーズ14 ウォン・カーウァイ』〔東京：キネマ旬報社〕、26～37頁、2001年3月。
- 「〔書評〕莫言『莫言散文』」、『I feel：読書風景』第16号、78～79頁、2001年春号。
- 「はじめに：日本と中国の150年——高杉晋作・夏目漱石から村上春樹まで」、『NHK ラジオ中国語講座』2001年4月号、84～89頁。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：汾陽という小都市の喪われた青春——賈樟柯監督『プラットホーム』」、『ユリイカ』第33巻第5号、286～287頁、2001年5月。
- 「夏目漱石が見た上海・香港」、『NHK ラジオ中国語講座』2001年5月号、92～97頁。
- 「夏目漱石が見た満州」、『NHK ラジオ中国語講座』2001年6月号、92～97頁。

- 「高杉晋作が見た上海」、『NHK ラジオ中国語講座』2001年7月号、104～109頁。
- 「血脇守之助が見た天津」、『NHK ラジオ中国語講座』2001年8月号、108～113頁。
- 「後藤新平が見た台湾」、『NHK ラジオ中国語講座』2001年月9号、110～115頁。
- 「台湾／侯映画で熱演／香港の女優舒淇」、『北海道新聞』2001年9月1日。
- 「〔書評〕楊銀祿著『毛沢東夫人江青の真実』」、『北海道新聞』2001年9月16日。
- 「清水安三が見た北京の魯迅」、『NHK ラジオ中国語講座』2001年10月号、104～109頁。
- 「吉田茂が見た奉天」、『NHK ラジオ中国語講座』2001年11月号、104～109頁。
- 「茅野裕城子の中国越境物語」、茅野裕城子著『韓素音の月』所収〔東京：集英社〕、2001年11月。
- 「〔書評〕ある男の聖書、性愛遍歴でつづる文革の苦悩——高行健著『ある男の聖書』」、『日本経済新聞』2001年11月18日朝刊。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ香港：敗者復活の香港ドリーム——周星馳主演『少林寺サッカー』」、『ユリイカ』第33巻第13号、266～267頁、2001年11月。
- 「真杉静枝の台湾脱走」、『NHK ラジオ中国語講座』2001年12月号、96～101頁。
- 「〔書評〕今年の3冊」、『ことし読む本いち押しガイド2002』所収〔東京：メタローグ〕、2001年12月。
- 「中国／香港の実験的探偵映画」、『毎日新聞』2002年1月24日。
- 「金子光晴が見た上海」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年1月号、86～91頁。
- 「川喜多長政が見た“淪陷期”上海」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年2月号、90～95頁。
- 「コラム・ワールド・カルチュア・マップ中国：現代上海をめぐる私小説

- と「我々映画」——『上海ベイビー』と『イチかバチか』、『ユリイカ』第34巻第2号、234～235頁、2002年2月。
- 「森繁久弥が見た満州国」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年3月号、114～119頁。
- 「グルメ都市の詩人・香港ドリームを描く映画『少林足球』」(特集「香港返還5周年：一国二制度のゆくえ——コラム 香港のすがた、香港人の息吹」)、外務省編集協力『外交フォーラム』第15巻第3号〔東京：世界の動き社〕、54～55号、2002年3月。
- 「日中2カ国語の本格文芸誌」、『北海道新聞』2002年4月2日。
- 「〔書評〕周作人著『日本談義集』」、『東京新聞』2002年4月28日。
- 「「活きる」作品評：“暴帝”毛沢東の恐怖時代を生き抜いた中国庶民の物語」、『キネマ旬報』第1353号、38～40頁、2002年4月〔角川書店『DVD張芸謀監督『活きる』解説』に再録〕。
- 「中蘭英助が見た占領下の北京」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年4月号、86～91頁。
- 「〔書評〕一族の変転に中国現代史を投影」『日本経済新聞』2002年5月19日朝刊〔書評：葉広苓著『貴門胤裔』上・下、東京：中央公論新社、2002年4月刊〕。
- 「李香蘭が見た台湾皇民化」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年5月号、102～107頁。
- 「韓瑞穂が見た国共内戦」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年月6号、84～89頁。
- 「エンジニア山本市朗が見た大躍進」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年7月号、96～101頁。
- 「〔インタビュー〕 豊多彩な現代中国文学——でも『上海ベイビー』はど
うも……王蒙」〔王蒙談、藤井省三インタビュー〕、『世界』第703号、247～251頁、2002年7月。
- 「中国／変化する香港社会」、『北海道新聞』2002年7月2日。
- 「メディア都市東京と魯迅」、『公明新聞』2002年7月14日。
- 「〔書評〕『劉索拉——大継家の小故事』」、『I feel：読書風景』2002年夏号、

78～79頁。

「中国／莫言初の歴史長編」、『毎日新聞』2002年8月22日。

「宝田明が見た香港1960年代」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年8月号、98～105頁。

「大宅壮一が見た文化大革命」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年9月号、100～105頁。

「映画と私」『キネマ旬報』2002年9月下旬、122～123頁、2002年9月。

「中国／「美女作家」を温かく」、『北海道新聞』2002年9月17日。

「私の台湾文学六〇年」〔葉石濤講演、藤井省三訳・解説〕、『新潮』第99巻第9号、262～274頁、2002年9月。

「台湾／李昂のグルメブック」、『毎日新聞』2002年10月24日。

「中国獄中ジャーナリストの詩」、『21人のプリズン』所収〔東京：日本ペンクラブ〕、16～18頁、2002年10月。

「中華を知るための「美味しい」エッセー」、『波』2002年10月号〔東京：新潮社〕、69頁。

「田中角栄の訪中と国交正常化」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年10月号、90～95頁。

「1978年有吉佐和子の中国農村レポート」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年11月号、108～113頁。

「〔書評〕瀬川千秋著『闘蟋』」、『東京新聞』2002年11月24日。

「〔映画紹介〕詩人は鶏の羽のように吹かれて飛ぶ：孟京輝監督『チキン・ポエッツ』」、『ユリイカ』34巻14号、2002年11月号、274～275頁。

「チベットを描く中国映画」、『北海道新聞』2002年12月10日。

「日中国交回復三〇周年記念連続インタビュー：日本と中国の二一世紀(2) 東アジアの同時代を映して——変わりゆく中国語文学」、『東方』第262号、2～7頁、2002年12月。

「〔書評〕今年の3冊」、『ことし読む本いち押しガイド2003』所収〔東京：メタローグ〕、2002年12月。

「茅野裕城子が見た改革・開放政策下の北京」、『NHK ラジオ中国語講座』2002年12月号、92～99頁。

- 「中華世界の「幻想の中国」香港詩人の Foodscape というファンタジー」(特集「中国幻想綺譚(チャイナ・ファンタジー)」)、『ユリイカ』第35巻第1号、178～180頁、2003年1月。
- 「警備員は見た！」〔周大新『21 大厦』の紹介〕、『新潮』第100巻第10号、2003年10月号、256～257頁、2003年10月。
- 「1993年 司馬遼太郎の『台湾紀行』」、『NHK ラジオ中国語講座』2003年1月号、90～95頁。
- 「2000年大江健三郎の北京訪問」、『NHK ラジオ中国語講座』2003年2月号、88～93頁。
- 「2003年旧正月香港でのある日本人男女の対話」、『NHK ラジオ中国語講座』2003年3月号、120～121頁。
- 「魯迅・中国・日本／謀殺説にひそむ不信感」、『朝日新聞』2003年3月13日。
- 「香港／始皇帝は暴君？英雄？」、『北海道新聞』2003年3月18日。
- 「〔書評〕辻井喬『桃幻記』」、『岐阜新聞』2003年3月30日〔共同通信社配信〕。
- 「北京のビールは茶碗で飲み、香港映画は北京で観るべし」、『NHK ラジオ中国語講座』2003年4月号、98～103頁。
- 「魯迅による紹興酒の飲み方」、『NHK ラジオ中国語講座』2003年5月号、92～97頁。
- 「〔書評〕息子が書いた一族の現代史——周海嬰著『わが父 魯迅』」、『日本経済新聞』2003年5月25日朝刊。
- 「民主化の展望を失った寂しい「超大作」」、『ユリイカ』第35巻第8号、244～245頁、2003年5月〔映画紹介：張芸謀『英雄』〕。
- 「上海の台湾文学ブーム」、『群像』第58巻第6号〔東京：講談社〕、334頁、2003年6月。
- 「『維多利亞俱樂部』解説」〔中国語〕關詩珮譯、『作家』第21期〔香港〕、23～31頁、2003年6月。
- 「魯迅と紹興酒」、『NHK ラジオ中国語講座』2003年6月号、108～113頁。
- 「ニューヨーク・チャイナタウンの紹興酒」、『NHK ラジオ中国語講座』2003年7月号、94～99頁。
- 「〔書評〕莫言著『白檀の刑』」、『中国新聞』2003年8月10日、『北海道新聞』

- 2003年8月31日ほか〔共同通信社配信〕。
- 「台湾文学の中の清酒」、『NHK ラジオ中国語講座』2003年8月号、94～99頁。
- 「〔書評〕成英妹『恐怖偶像劇』」、『I feel : 読書風景』2003年夏号。
- 「中国映画における日中戦争の描きかた——『鬼が来た!』と『戦場に咲く花』」、『ユリイカ』第35巻第11号、244～245頁、2003年8月。
- 「台北にバーが流行る理由」、『NHK ラジオ中国語講座』2003年9月号、128～133頁。
- 「香港のバー街・蘭桂坊の物語」、『NHK ラジオ中国語講座』2003年10月号、90～95頁。
- 「鄭義という亡命作家」、『自由のために書く——中国亡命作家鄭義と大江健三郎の対話』〔日本ペンクラブ第23回 WiP (ライターズ・イン・プリーズン) の日〕パンフレット、3～5頁、2003年10月7日。
- 「村上春樹の中の中国」〔『人民中国』創刊50周年記念シンポジウム「日本の中の中国」より〕、『東方』第272号、14～18頁、2003年10月。
- 「台北を再認識させた映画」、『北海道新聞』2003年11月11日夕刊〔映画紹介：易智言監督「藍色夏恋」〕。
- 「〔書評〕『靈山』——聖地探しさすらう「私』」、『北海道新聞』2003年11月16日夕刊。
- 「シアターカイ 中国国家話劇院・林兆華演出『故事新編』によせて」、『シアターカイ2年がかりの「プレヒト的プレヒト演劇祭」ブックレット』vol.4、2003年11月。
- 「“伝奇世界”から覗く中国民衆のエネルギー：莫言インタビュー」〔藤井省三訳・解説〕、『中央公論』第118巻第11号、180～188頁、2003年11月。
- 「莫言インタビュー：“伝奇世界”から覗く中国民衆のエネルギー」、『中央公論』2003年11月号、180～188頁。
- 「現代中国のトラウマを集約したドキュメンタリー大作——池谷薫監督『延安の娘』」、『ユリイカ』第35巻第15号、242～243頁、2003年11月。
- 「香港・湾仔の蘇絲黃 スージー・ウォン バーと新界の大栄華酒楼」、『NHK ラジオ中国語講

- 座』2003年11月号、90～95頁。
- 「留学・亡命・外交——郭沫若の来日三様」(特集「知の交流」半世紀——戦後日本の来訪者たち)、『国際交流』第25巻第4号、44～49頁、2003年。
- 「東京の香港グルメ詩人」、『NHK ラジオ中国語講座』2003年12月号、98～103頁。
- 「2003年読書アンケート」、『みすず』2004年1・2月合併号〔東京：みすず書房〕、34～35頁。
- 「シンガポールで一番旨い酒」、『NHK ラジオ中国語講座』2004年1月号、90～95頁。
- 「プラハ地下バーの現代中国詩」、『NHK ラジオ中国語講座』2004年2月号、90～95頁。
- 「対談 自由のために書く——大江健三郎・鄭義」〔大江健三郎×鄭義対談、藤井省三司会〕、『世界』第723号、214～224頁、2004年2月。
- 「内陸部の人間群像生き生き描く」、『北海道新聞』2004年2月3日夕刊。
- 「対談 小川洋子×李昂」〔小川洋子×李昂対談、藤井省三司会〕、『新潮』第101巻第2号、180～188頁、2004年2月。
- 「李昂文学＝性と政治の最先端——台湾文化のクレオール性、そして李昂」、『中華モード：非常有希望の上海台湾前衛芸術大饗宴』(トーキングヘッズ叢書第20号)所収〔東京：アトリエサード〕、85～93頁、2004年3月。
- 「中国学・韓国学の《十年後》、現代文学」、『月刊しにか』2004年3月号、66～67頁。
- 「中国的宴会の極北——莫言の『酒国』」、『NHK ラジオ中国語講座』2004年3月号、116～121頁。
- 「莫言故郷の銘酒と小説「白い犬とブランコ」」、『NHK ラジオ中国語講座』2004年4月号、100～105頁。
- 「也斯について」、『ユリイカ』第36巻第5号、229～230頁、2004年5月。
- 「チベットのピクニック」、『NHK ラジオ中国語講座』2004年5月号、104～109頁。
- 「北京の二鍋頭」、『NHK ラジオ中国語講座』2004年6月号、140～145頁。
- 「丸^{チャイ}「拆」の街の白日夢：北井一夫『1990年代北京』〔東京：冬青社、

- 2004年3月刊]、『アサヒカメラ』2004年6月号、190頁。
- 「回應陳映真対拙著『台湾文学百年』之誹謗中傷」〔中国語〕黄英哲譯、『作家』第24期〔香港〕、69～74頁、2004年6月。
- 「回應陳映真対拙著『台湾文学百年』之誹謗中傷」〔中国語〕黄英哲譯、『聯合文学』236号〔台湾〕、26～32頁、2004年6月。
- 「陳映真氏に反駁する——拙著『台湾文学この百年』への誹謗中傷をめぐって」、『東方』第281号、8～12頁、2004年7月。
- 「侯監督の“東京電車物語”」、『北海道新聞』2004年7月13日夕刊。
- 「〔書評〕上海路地裏の母と娘の物語——王安憶『桃之夭夭』」、『I feel：読書風景』第29号、2004年夏号。
- 「中国白酒文化を守れ!」、『NHK ラジオ中国語講座』2004年7月号、110～115頁。
- 「故宮を見下ろして飲む北京ワイン」、『NHK ラジオ中国語講座』2004年8月号、120～125頁。
- 「1979年上海ビールのおつまみ」、『NHK ラジオ中国語講座』2004年9月号、134～139頁。
- 「鄭義さんからの手紙<中国の現状>」、『言葉の牢獄——方言からの再出発』〔日本ペンクラブ第24回 WiP (ライターズ・イン・プリズン) の日パンフレット〕、2004年10月24日、16～17頁。
- 「日中韓三文化を比較研究」、『信濃毎日新聞』2004年10月24日ほか〔書評：李相哲著『漢字文化の回路——東アジアとは何か』東京：凱風社、2004年9月刊〕〔共同通信社配信〕。
- 「若き現代上海の物語」、『琉球新報』2004年10月31日ほか〔時事通信社配信〕〔書評：衛慧著／泉京鹿訳『衛慧みたいにクレイジー』東京：講談社、2004年10月〕。
- 「〔Book Review〕時代の精神と共に歩む文学論の軌跡——岸陽子著『中国知識人の百年——文学の視座から』」、『東方』第284号、34～37頁、2004年10月。
- 「烏魯木齊路の文化探検」、『NHK ラジオ中国語講座』2004年11月号、98～103頁。

- 「日中の国境を越える文学／グローバリゼーションに対する主体性＝鲁迅／中国を自らの中心的課題に定める＝村上春樹」、『公明新聞』2004年11月7日。
- 「東アジアの村上春樹現象／都市文化成熟の指標／中国を凝視する作品群」、『北国新聞』2004年12月16日ほか〔共同通信社配信〕。
- 「大傑作 香港の柔道映画／世界文学・文化アラカルト 中国」、『北海道新聞』2004年12月21日夕刊。
- 「淮海中路の文化探検」、『NHK ラジオ中国語講座』2004年12月号、108～113頁。
- 「台湾女性に対する「侮辱にして不潔」な拷問」、『群像』第59巻第12号、184～185頁、2004年12月。
- 「二〇〇四年読書アンケート特集」、『みすず』2005年1・2月号、5頁。
- 「樓梯（ラダー）街の宋金倩（ソンガムシン）香港」（特集「文学アジア——ここにある／どこにもない小説空間」）〔黄淑嫻著、藤井省三訳・解説〕、『新潮』第102巻第1号、116～126頁、2005年1月。
- 「奇跡が櫓でやって来る 中国」（特集「文学アジア——ここにある／どこにもない小説空間」）〔潘向黎著、藤井省三訳・解説〕、『新潮』第102巻第1号、76～88頁、2005年1月。
- 「対談 新上海の"感性"を描く——『衛慧みたいにクレイジー』をめぐって」〔衛慧×藤井省三対談〕、『東方』第287号、2～8頁、2005年1月。
- 「ビールの都、上海」、『NHK ラジオ中国語講座』2005年1月号、86～91頁。
- 「ソウルの新興チャイナタウンで飲む東北白酒」『NHK ラジオ中国語講座』2005年2月号、88～93頁。
- 「誹謗中傷の容認は東アジアの言論自由を脅かす——松永正義氏による陳映真擁護論の誤り」、『東方』288号、16～19頁、2005年2月。
- 「『東アジア文学史』の構想と鲁迅・村上春樹」、『アジア遊学』第72号、56～59頁、2005年2月。
- 「〔解説〕裏切られた中国文化大革命と森詠の横浜狼犬」、森詠著『青龍、哭く——横浜狼犬Ⅲ』〔東京：光文社、2005年2月刊〕、437～444頁、2005年2月。

- 「夢の酒宴——スイスのスージー・ウォンからお湯割りでできない北京の二鍋頭まで」、『NHK ラジオ中国語講座』2005年3月号、118～123頁。
- 「正義感溢れる社会批判」、『北海道新聞』2005年3月22日〔書評：余傑『香草山』〕。
- 「映画論の傑作、香港論の佳作」、『新潮』第102巻5号、274～275頁、2005年5月〔書評：野崎敏著『香港映画の街角』東京：青土社、2005年2月刊〕。
- 「3つの中国語圏——映画文化の現在／異なる歴史意識、社会観」、『北海道新聞』2005年5月17日夕刊。
- 「衰えぬ「村上春樹現象」」、『北海道新聞』2005年6月7日夕刊。
- 「〔書評〕「不条理の現実」が光る作品群」、『日本経済新聞』2005年7月10日朝刊〔書評：高行健著『母』東京：集英社、2005年5月刊〕。
- 「公私二重の検閲経た作品」、『北日本新聞』2005年7月10日ほか〔共同通信社配信〕〔書評：高行健『母』集英社、2005年5月〕。
- 「余傑 E メール・インタビュー：対立を超えて」「天安門の記憶を抱いて（一部抜粋）」〔余傑談、藤井省三インタビュー・訳〕、『すばる』第27巻第8号、133～136頁、120～132頁、2005年8月。
- 「アジアの学問自由を脅かす"正直の学者"たち——陳映真・松永正義・『文芸報』三者の「文学台独」大批判をめぐって」、『東方』第294号、6～10頁、2005年8月。
- 「ポスト鄧小平時代の文学における"絶対村上"と"反日"の情念」（特集 中国文学の現在——「春樹」から「反日」まで）、『すばる』第27巻第8号、137～141頁、2005年8月。
- 「出稼ぎ人の街・北京の青春」、『北海道新聞』2005年8月16日〔映画紹介：賈樟柯監督『世界』〕。
- 「「中国の良心」を体現／巴金氏を悼む」、『朝日新聞』2005年10月24日。
- 「東アジアにおける村上春樹」（提言「東アジアの日本文学・日本文化研究——その課題と可能性」）、『日本近代文学』第73号、259～262頁、2005年10月。
- 「大江さんの巴金追悼に深い感銘」、『北海道新聞』2005年11月1日。

- 「巴金氏を悼む」、『すばる』第27巻第12号、156～157頁、2005年12月。
- 「死和再生的神话」、『文汇报』「中国电影在上海・百年纪年特刊」〔上海〕、2005年12月22日。
- 「二〇〇五年読書アンケート」、『みすず』2006年1・2月合併号、26～27頁。
- 「〔書評〕『十面埋伏（上・下）』——中国に潜む搾取と不正」、『北海道新聞』2006年1月15日〔書評：張平著、荒岡啓子訳『十面埋伏』東京：新風舎、2005年11月刊〕。
- 「台北のアイリッシュ・コーヒー」、『北海道新聞』2006年1月24日〔書評：蔡智恆著『アイリッシュ・コーヒー』〕。
- 「すばる文学カフェ ひと 潘向黎」、『すばる』第28巻第3号、184～187頁、2006年3月。
- 「すばる文学カフェ ひと 徐静蕾」、『すばる』第28巻第4号、172～175頁、2006年4月。
- 「「病める家族」の中の孤独」、『北海道新聞』2006年4月18日夕刊、9頁〔映画紹介：エリック・クー監督『一緒にいて』〕。
- 「中国21世紀を読み歩こう（第1回）上海OLの「^{カーフワイ}カ哇依」恋とグルメ：潘向黎「わたしはちびまる子が大好き」(上)」、『NHK ラジオ中国語講座』2006年4月号、112～117頁。
- 「中国21世紀を読み歩こう（第2回）上海OLの「^{カーフワイ}カ哇依」恋とグルメ：潘向黎「わたしはちびまる子が大好き」(下)」、『NHK ラジオ中国語講座』2006年5月号、124～129頁。
- 「「歴史の記憶」伝える／村上文学に世界が共感」、『陸奥新報』2006年5月28日ほか〔時事通信社配信〕。
- 「Book Review 世紀末中国で甦ったカフカ——残雪著／近藤直子訳『魂の城——カフカ解説』」、『東方』第305号、33～35頁、2006年7月。
- 「〔書評〕「四十一炮」莫言著、吉田富夫訳——現代中国農村の狂騒」、『文學界』第60巻第6号、283～285頁、2006年6月。
- 「香港の恋人たちに降る雨は……黄淑嫻「坭街を行く人」(上)」、『NHK ラジオ中国語講座』2006年6月号、108～115頁。
- 「香港の恋人たちに降る雨は……黄淑嫻「坭街を行く人」(下)」、『NHK ラ

- ジオ中国語講座』2006年7月号、98～105頁。
- 「正視すべき歴史の記憶」、『北海道新聞』2006年7月4日〔映画紹介：池谷薫監督『蟻の兵隊』〕。
- 「台湾恐怖政治時代の食卓：李昂「国宴」（上）」、『NHK ラジオ中国語講座』2006年8月号、124～130頁。
- 「〔巻頭随筆 一冊の本〕村上春樹と魯迅および東アジア」、『一冊の本』2006年8月号、2～4頁。
- 「講演のため初来日した／中国文芸界の社会派、余華／文革の終息を機に小説家志す」、『公明新聞』2006年9月24日。
- 「台湾恐怖政治時代の食卓：李昂「国宴」（下）」、『NHK ラジオ中国語講座』2006年9月号、120～125頁。
- 「世界文学・文化アラカルト／時代描いた映画に感慨」〔三百人劇場「中国映画の全貌2006」〕、『北海道新聞』2006年9月19日。
- 「映画と小説が描くシンガポールという「病める家」、舛谷鋭監修『開高健記念アジア作家講演会シリーズ16：丁雲講演会——シンガポール華人の喪失と漂流』所収〔東京：国際交流基金〕、8～9頁、2006年10月。
- 「なぜ世界は村上春樹を読むのか」（1～27頁）、「札幌「ドルフィン・ホテル」の思い出と「東アジアと村上春樹」シンポへの展開」（241～247頁）、柴田元幸・沼野充義・藤井省三・四方田犬彦共編『世界は村上春樹をどう読むか』所収〔東京：文藝春秋社〕、2006年10月。
- 「北京再発見 徐坤「おはよう北京」（上）」、『NHK ラジオ中国語講座』2006年10月号、84～89頁。
- 「北京再発見 徐坤「おはよう北京」（下）」、『NHK ラジオ中国語講座』2006年11月号、84～89頁。
- 「〔書評〕『アニメーション日中交流記 持永只仁自伝』／得難い足跡を残した製作者」、『産経新聞』2006年12月4日。
- 「高度経済成長社会の光と影」、『北海道新聞』2006年12月5日〔映画紹介：賈樟柯監督『三峡好人』〕。
- 「まじめなシンガポールのブラックユーモア小説——呉耀宗『闇の中の太鼓』〔原題：『暗鼓』〕「冗談」（上）」、『NHK ラジオ中国語講座』2006年

12月号、94～99頁。

「現代中国の原風景——野外映画館「シネマ大世界」が映し出す清く美しい時代」、『玲玲の電影日記』パンフレット、11～15頁、2006年。

「まじめなシンガポールのブラックユーモア小説——呉耀宗『闇の中の太鼓』〔原題：『暗鼓』〕「冗談」(下)」、『NHK ラジオ中国語講座』2007年1月号、122～127頁。

「文革の悲劇 少女の目で」、『北海道新聞』2007年1月14日〔書評：ルル・ワン著、鴻巣友季子訳『睡蓮の教室』東京：新潮社、2006年10月刊〕。

「言葉の海」〔小川洋子×李昂×藤井省三の鼎談〕、『小川洋子対話集』所収〔東京：幻冬舎〕、81～99頁、2007年1月。

「〔書評〕中国の農村、死者の語りで描く」、『日本経済新聞』2007年2月11日朝刊〔書評：閻連科著、谷川毅訳『丁庄の夢——中国エイズ村奇談』東京：河出書房新社、2007年1月刊〕。

「対談 シンガポール華人の喪失と漂流」〔丁雲と藤井省三との対談〕、『遠近』第15号〔東京：国際交流基金〕、58～63頁、2007年2月。

「人気作家・安妮の素顔」、『北海道新聞』2007年2月27日夕刊。

「農民出稼ぎ労働者の悲哀——孫恵芬『民工』(上)」、『NHK ラジオ中国語講座』2007年2月号、100～105頁。

「農民出稼ぎ労働者の悲哀——孫恵芬『民工』(下)」、『NHK ラジオ中国語講座』2007年3月号、120～125頁。

「魯迅と村上春樹——東アジア文学における「阿Q」像の系譜」、『をちこち』16号、66～71頁、2007年4月。

「再登場の渡辺淳一文学／不倫戒める「道徳」書に／日本留学中の研究者が報告」、『北海道新聞』2007年5月15日夕刊。

「映画『長江哀歌』に見る現代中国」、『長江哀歌日本版プレス』〔東京：ムヴィオラ〕、10～11頁、2007年4月24日。

「草原を追われていく遊牧民の悲劇」、『北海道新聞』2007年7月31日夕刊〔映画紹介：寧才監督『白い馬の季節』〕。

「映画『長江哀歌』に見る現代中国」、『長江哀歌』所収〔編集：東宝ステラ、発行所：東宝〕、20～21頁、2007年8月18日〔『長江哀歌日本版プレス』〕

- 掲載原稿の一部修正版)。
- 「賈樟柯監督『長江哀歌』を観る／中国社会の光と影／高度経済成長期中国の回答」、『図書新聞』第2835号、2007年9月1日。
- 「世界文学・文化アラカルト：台湾——翻訳で深まる相互理解」、『北海道新聞』2007年10月16日夕刊。
- 「都市へと追われる遊牧民の尊厳とリストラ日本の行方」、『キネマ旬報』1493号、12頁、2007年10月下旬〔映画紹介：寧才監督『白い馬の季節』〕。
- 「北京の魯博と上海の記念館——中国の魯迅文学館の思い出」、『軽井沢高原文庫通信』第68号、3頁、2007年10月。
- 「東アジアが読む村上文学と村上春樹が読む魯迅」、『FA』第23号、25～26頁、2007年11月。
- 「世界文学・文化アラカルト：香港・台湾——黒社会と大自然対照的」、『北海道新聞』2007年12月18日夕刊〔映画紹介：畢國智^{ケネス・ビー}監督『ドラマー（戦・鼓）』〕。
- 「中国南方の小さな町に生まれて——小説家・余華さんに聞く」〔余華談、藤井省三インタビュー〕、『遠近』14号、60～64頁、2007年12月。
- 「命の循環説く遊牧の哲学」、『福井新聞』2008年1月13日ほか〔時事通信社配信〕、〔書評：姜戎著、唐亜明・関野喜久子訳『神なるオオカミ（上）』東京：講談社、2007年11月刊〕。
- 「座談会 村上春樹の魅力——研究者の視点から」〔川村湊／鈴木和成／藤井省三／柘植光彦司会〕、『国文学』別巻所収〔東京：至文堂〕、5～26頁、2008年1月。
- 「新しい越境文学の誕生」、『山陰中央新報』2008年2月3日、『岩手新聞』2008年2月2日ほか〔共同通信社配信〕〔書評：楊逸著『ワンちゃん』東京：文藝春秋、2008年1月刊〕。
- 「獄中詩人師濤と北京オリンピック・詩のリレー」、『獄中作家の日パンフレット』〔発行：日本ペンクラブ〕、2008年2月。
- 「私の海外長篇小説ベスト10選」、『考える人』〔東京：新潮社〕、2008年春号、2008年4月。
- 「現代中国の知識人」（特集：中国——歴史と現在）、『大航海』第66号、

32～40頁、2008年4月。

「村上春樹チルドレン次々誕生」、『北海道新聞』2008年4月8日夕刊〔書評：田原著『双生水莽』〕。

「北京の村上春樹の旅」、『TRANSIT』1号〔東京：講談社〕、137頁、2008年4月。

「テーマで読み解く現代／中国①不条理を生きる／安妮寶貝著『さよなら、ピピアン』ほか」、『東京新聞』2008年6月8日朝刊。

「テーマで読み解く現代／中国②／日中で共有する物語／村上春樹著『神の子どもたちはみな踊る』ほか」、『東京新聞』2008年6月15日朝刊。

「テーマで読み解く現代／中国③／綿密な現地取材／吉岡桂子著『愛国経済』ほか」、『東京新聞』2008年6月22日朝刊。

「世界文学・文化アラカルト：中国——四川大地震を映画化」、『北海道新聞』2008年6月24日夕刊。

「中国 銀幕に紡ぐ「記憶」」、『読売新聞』2008年6月26日朝刊。

「テーマで読み解く現代／中国④／台湾文学を通じて／白先勇『台北人』ほか」、『東京新聞』2008年6月29日。

「〔交遊抄〕村上翻訳家たち」、『日本経済新聞』2008年7月4日朝刊。

「私の好きな自伝、評伝、日記」、『考える人』2008年夏号〔東京：新潮社〕、87頁、2008年7月。

「中国の『ノルウェイの森』——または天安門事件後の「余計者」の恋人たち」、シアター・イメージフォーラムパンフレット〔婁燁監督『天安門、恋人たち』〕、2008年7月。

「現代日本文学が中国語になるとき：大江健三郎・村上春樹・渡辺淳一のばあい」、『人民中国』2008年7月号、50～51頁〔『人民日報』インターネット版、2008年9月5日〕。

「〔書評〕悲劇・喜劇で暴く中国の暗黒部」、『日本経済新聞』2008年8月3日朝刊〔書評：余華著、泉京鹿訳『兄弟』（上・下）、東京：文藝春秋、2008年6月刊〕。

「夢の実現と歴史の記憶／北京五輪に思う」、『東京新聞』2008年8月11日夕刊。

- 「〔書評〕楊逸著『時が滲む朝』を読む——新しい越境文学の登場」、『週刊読書人』第2751号、2008年8月。
- 「世界文学・文化アラカルト：シンガポール——急速復活／映画産業に注目」、『北海道新聞』2008年9月16日夕刊〔映画紹介：『881 歌え！パイヤ』〕。
- 「二重越境者が語る「私小説」的現代中国論」、『群像』第63巻第11号、350～351頁、2008年11月〔書評：リービ英雄『延安 革命聖地への旅』東京：岩波書店、2008年8月刊／『仮の水』東京：講談社、2008年8月刊〕。
- 「二〇〇八年読書アンケート」、『みずず』第51巻第1号（2009年1・2月合併号）、7～8頁。
- 「幻の街の「歴史の記憶」——虚実皮膜の不思議な映画」、『四川のうた：ジャ・ジャンクー監督最新作〇2008カンヌ国際映画祭コンペティション部門正式上映』〔ビターズ・エンド、プレス用パンフレット（非売品）〕、12～13頁、2009年1月23日。
- 「東アジアが読む村上春樹」、『文學界』第63巻第1号、220～233頁、2009年1月。
- 「ポストモダンの終焉と百年の現代中国文学」、『東方』第335号、4～5頁、2009年1月。
- 「世界文学・文化アラカルト：中国——映画、小説で描く「底層」社会」、『北海道新聞』2009年1月13日夕刊〔映画紹介：周耀武監督『^{きゅうり}黄瓜』〕。
- 「新しい一年は劉曉波に捧げよう」、日本ペンクラブ『獄中作家の日パンフレット』2009年2月。
- 「世界文学・文化アラカルト：台湾——庶民感覚で描く日台関係」、『北海道新聞』夕刊2009年4月1日〔映画紹介：魏徳聖監督『海角七号』〕。
- 「インタビュー 天安門以後に「個人」を撮る」^{ジャ・ジャンクー}〔賈樟柯×藤井省三対談〕、『群像』第64巻4号、158～165頁、2009年4月。
- 「幻の街の「歴史の記憶」——虚実皮膜の不思議な映画」、『四川のうた：ジャ・ジャンクー監督最新作〇2008カンヌ国際映画祭コンペティション部門正式上映』〔ビターズ・エンド〕、14～15頁、2009年4月18日。
- 「高度経済成長支える労働者」、『北海道新聞』2009年6月30日夕刊〔映

- 画紹介：賈樟柯監督『買想1996 | 2008』。
- 「食事文化三千年を百科事典風に読んでしまうと——『中国食事文化の研究』、『東方』第355号、28～30頁、2010年9月〔書評：西澤治彦著『中国食事文化の研究』東京：風響社、2009年12月刊〕。
- 「映画を通し聞こえてくる、孫文の“遺言”とは！？——『孫文-100年先を見た男-』、『Pen』9月1日発売号、98頁。
- 「世界文学・文化アラカルト：「底層叙述」貧富の格差警鐘」、『北海道新聞』2009年10月13日夕刊。
- 「農村疲弊の実体を告発：『貧者を喰らう国 中国格差社会からの警告』、『北海道新聞』2009年11月22日朝刊〔書評：阿古智子著『貧者を喰らう国』東京：新潮社、2009年9月刊〕。
- 「二〇〇九年読書アンケート」、『みすず』第52巻第1号、2010年1・2月合併号、28～29頁。
- 「世界文学・文化アラカルト：陳情村が映す腐敗と不条理」、『北海道新聞』2010年1月26日夕刊〔映画紹介：趙亮監督『北京陳情村の人々(上訪)』〕。
- 「東アジアと村上春樹と私」、『熱風』第8巻第3号〔東京：スタジオジブリ発行〕、20～27頁、2010年3月号。
- 「アンケート 東大教師が新入生にすすめる本」、『UP』第39巻第4号、2～3頁、2010年4月。
- 「世界文学・文化アラカルト：都市生活の影 奇妙な物語に」、『北海道新聞』2010年4月13日夕刊。
- 「香草堂」〔蘇童著、藤井省三訳・作家紹介〕、『新潮』第107巻第6号、50～67頁、2010年6月。
- 「世界文学・文化アラカルト：関心高まる李昂 シンポ盛況」、『北海道新聞』2010年7月13日夕刊。
- 「座談会「故郷」の〈文脈〉を掘り起こす(特集〈文脈〉を掘り起こす：文学教育と〈語り〉)」(中村龍一／藤井省三／高木まさき他)、『日本文学』第59巻第8号、2～34頁、2010年8月。
- 「〔Book Review〕食事文化三千年を百科事典風に読んでしまうと：西澤治彦著『中国食事文化の研究』、『東方』第355号、28～30頁、2010年9月。

- 「中国と米国の間を生きる」、『信濃毎日新聞』2010年10月17日ほか〔共同通信社配信〕〔書評：哈金著『自由生活』上・下、東京：NHK出版、2010年9月刊〕。
- 「世界文学・文化アラカルト：映画の夢かなえた高行健」、『北海道新聞』2010年10月5日夕刊。
- 「二〇一〇年読書アンケート」、『みすず』第53巻第1号、2011年1・2月合併号、8頁。
- 「世界文学・文化アラカルト：映画が掘り起こす強制収容所の記憶」『北海道新聞』2011年1月5日夕刊。
- 「壁の中の劉曉波と村上春樹の碎ける卵」、『環』第44号〔東京：藤原書店〕、130～131頁、2011年1月。
- 「世界文学・文化アラカルト：相互理解深める東アジア」、『北海道新聞』2011年3月29日夕刊。
- 「中国における村上春樹受容の第二の転換期」、『新潮』第108巻第3号、204～205頁、2011年3月。
- 「〔書評〕西槿偉『響きあうテキスト——豊子愷と漱石、ハーン』」、『熊本日日新聞』2011年7月10日。
- 「9月25日に生誕130周年／東アジアで重要性増す／魯迅文学／漱石から春樹まで深い影響関係」、『公明新聞』2011年8月21日
- 「美味しくもほろ苦い、恋と家族愛の物語」、『一冊の本』2011年10月号、8～9頁〔書評：楊逸著『獅子頭』東京：朝日新聞出版、2011年10月刊〕。
- 「魯迅が落谷虹児を翻訳するとき」、『孤愁の詩人・画家 落谷虹児展』所収〔町田市民文学館ことばらんど編集・発行〕、12～14頁、2011年10月。
- 「〔解説〕激動の東アジア現代史語る自伝」、齊邦媛著・池上貞子・神谷まり子訳『巨流河』上・下〔東京：作品社、2011年6月刊〕所収、2011年11月27日。
- 「各地各層貴重な自分史」、『北海道新聞』2011年12月18日〔書評：欣然著、中谷和男訳『中国最後の証言者たち』東京：武田ランダムハウスジャパン、2011年9月刊〕。
- 「〔Book Review〕南洋性と中国性が混淆する架空の町の物語——李永平

- 著・池上貞子／及川茜訳『吉陵鎮ものがたり』、『東方』第362号、33～36頁、2011年4月。
- 「中国政治犯たちの収容所の記憶：映画『無言歌』の原作『夾辺溝の記録』をめぐって」、『無言歌』パンフレット〔東京：ムヴィオラ〕、19～20頁、2011年12月17日発行。
- 「二〇一一年読書アンケート」『みすず』第54巻第1号、2012年1・2月合併号、38～39頁。
- 「〔Book〕魯迅の政治的利用の全貌を解明する：長堀祐造著『魯迅と Trotsky』：中国における『文学と革命』」、『東方』第374号、東京：東方書店、28～31頁、2012年4月。
- 「学生に託した日中文化交流 中国作家・謝冰心の東大講師時代」、『朝日新聞』2012年7月17日夕刊。
- 「中国の村上春樹作品翻訳に新動向／『1Q84』機に変化／民主化とも関わり」、『毎日新聞』2012年8月23日夕刊。
- 「中国農村の現実描く」、『信濃毎日新聞』2012年10月12日〔共同通信社配信〕。
- 「ノーベル文学賞に莫言氏、中国農村の現実を描く」『日本経済新聞』2012年10月12日朝刊。
- 「莫言氏ノーベル賞／農村からの魔術的リアリズム」、『朝日新聞』2012年10月16日朝刊。
- 「温泉大好きの知日派／莫言氏のノーベル文学賞受賞に寄せて」、『公明新聞』2012年10月21日。
- 「中国とポスト『1Q84』」、『文芸春秋』第90巻第14号、83～85頁、2012年11月。
- 「新ノーベル文学賞作家 莫言の人と文学」、『文學界』第66巻第12号、270～277頁、2012年12月。
- 「二〇一二年読書アンケート」、『みすず』第55巻第1号、2013年1・2月合併号、3～4頁。
- 「莫言と村上春樹チルドレン——現代中国文芸界をめぐって」、『善隣』428号〔発行：一般社団法人国際善隣協会〕、2～9頁、2013年2月。

- 「〔書評〕時代の変化を描く自伝的小説」『日本経済新聞』2013年4月14日朝刊〔書評：莫言著、長堀祐造訳『変』東京：明石書店、2013年3月刊〕。
- 「中国の失政、真っ向批判」、『大分合同新聞』2013年5月26日朝刊ほか〔書評：莫言著／吉田富夫訳『天堂狂想歌』東京：中央公論新社、2013年4月刊〕。
- 「人民共和国の文学における「娼婦」の消失と復権——魯迅、趙樹理から高行健、莫言、韓寒まで」、『en-taxi』39号〔東京：扶桑社〕、34～37頁、2013年7月。
- 「男と女——洗練されたエロス」、『北海道新聞』2014年2月23日〔書評：沈從文著、小島久代訳『辺境から訪れる愛の物語——沈從文小説選』東京：勉誠出版、2013年11月刊〕。
- 「〔書評〕動乱の中で直面する家族の危機」、『日本経済新聞』2014年3月2日朝刊〔書評：余華著、飯塚容訳『血を売る男——許三觀売血記』東京：河出書房新社、2013年12月刊〕。
- 「〔書評〕荒涼とした現代の心象、寓話的に」、『日本経済新聞』2014年3月30日朝刊〔残雪著／近藤直子訳『最後の恋人——残雪コレクション』東京：平凡社、2014年2月刊〕。
- 「〔書評〕大澤真幸『〈世界史〉の哲学 東洋篇』、『北海道新聞』2014年5月18日。
- 「莫言が描く中国の村の希望と絶望：「花束を抱く女」等の帰郷物語と魯迅および『アンナ・カレーニナ』」、『文學界』第68巻第5号、232～276頁、2014年5月。
- 「ひと ジャ・ジャンクー」〔賈樟柯氏へのインタビュー、藤井省三聞き手・構成〕、『すばる』第36巻第6号、192～195頁、2014年6月。
- 「春樹と阿Qたち」の寓意——浮かび上がる魯迅との興味深い関係」、『毎日新聞』2014年7月31日夕刊。
- 「村上春樹『1Q84』と魯迅「阿Q正伝」』、『季刊文科』63号〔東京：鳥影社〕、16～17頁、2014年8月。
- 「〔書評〕万城目学『悟浄出立』』、『週刊文春』2014年9月4号、111頁。
- 「〔書評〕深い絶望こもる現代中国の寓話」、『日本経済新聞』2014年10月

- 26日朝刊〔書評：閻連科著／谷川毅訳『愉楽』東京：河出書房新社、2014年9月刊〕。
- 〔〔書評〕横山悠太『吾輩ハ猫ニナル』〕、『中央公論』2014年10月号、222～223頁。
- 〔追悼山口淑子——満映の大スター・李香蘭とぬか漬け〕、『中央公論』2014年11月号、242～243頁。
- 〔中国の村上春樹文学事情／版權争奪戦 訳文も変遷〕、『読売新聞』2015年5月20日。
- 〔モダン都市台北の記憶〕、『週刊文春』2015年6月11日号、114頁〔書評：呉明益著、天野健太郎訳『歩道橋の魔術師 エクス・リブリス』東京：白水社、2015年4月刊〕。
- 〔韓寒：現代中国「八〇後（ポストエイティーズ）」文学の旗手〔すばる海外作家シリーズ（21）韓寒〕〕、『すばる』37巻7号、306～308頁、2015年7月。
- 〔解説：香港アイデンティティの深層を描くミステリー〕、『すばる』第37巻第9号、309～310頁、2015年9月。
- 〔〔解説〕台湾ポスト民主化世代による新ローカル・カラー文学〕、『すばる』第37巻第11号、273～274頁、2015年11月。
- 〔大江健三郎と『魯迅と日本文学』〕、『UP』第44巻第11号、1～5頁、2015年11月。
- 〔耳で読む物語る人の話を聴くこと——あとがき〕莫言著、林敏潔／藤井省三訳『莫言の思想と文学——世界と語る講演集』所収〔東京：東方書店〕、241～245頁、2015年11月。
- 〔不信解く少数派の視点〕、『北海道新聞』2015年11月29日朝刊〔書評：張承志著、梅村坦監訳『中国と日本——批判の刃を己に』東京：亜紀書房、2015年10月刊〕。
- 〔刻畫香港身份認同深處の懸疑小説〕〔中国語〕李凱琳譯、『香港文学』第372号、7頁、2015年12月。
- 〔大移動時代の中国における韓寒『1988』〕、『早稲田文学』2015年冬号、133頁。

- 「読書アンケート特集」、『みすず』第58巻第1号、2016年1、2月合併号、24～25頁。
- 「莫言と松本清張——“アンチ探偵小説”『酒国』の謎」、北九州市立松本清張記念館・編集・発行『セカイブンガクとセイチョウブンガク図録』所収、36頁、2016年1月16日。
- 「〔書評〕 閻連科著『年月日』」、『東京新聞』2016年12月11日朝刊。
- 「読書アンケート特集」、『みすず』第59巻第1号、2017年1・2月合併号、5～6頁。
- 「掲載現代中国の問題を凝縮した寓話」、『公明新聞』2017年2月6日〔書評：閻連科著、泉京鹿訳『炸裂志』東京：河出書房新社、2016年11月刊〕。
- 「アジア文学は、いま——中国・台湾文学を中心に」、『P. E. N.』第443号、22～23頁、2017年5月。
- 「読書アンケート特集」、『みすず』第60巻第1号、2018年1、2月合併号、7頁。

2-4、翻訳等

- 「中国現代史の暗い真実を映画で暴露した田壮壮」〔田壮壮著、藤井省三訳〕、『芸術新潮』第45巻第2号、75～79頁、1994年2月。
- 「特集 香港映画：香港カルチュラル・スタディーズ：香港文化の「周縁性」・序説」〔李歐梵講演、藤井省三訳〕、『ユリイカ』第29巻第6号、264～271頁、1997年5月。
- 「対談 自由への夢を描いて」〔李昂×吉本ばなな対談、藤井省三訳〕、『すばる』第21巻第7号、82～94頁、1999年7月。
- 「詩 食景詩(Foodscape)」〔也斯著、藤井省三訳〕、『ユリイカ』第32巻第11号、42～53頁、2000年8月。
- 「短篇 海峡を渡る幽霊」〔李昂著、藤井省三訳〕、『新潮』第101巻第2号、163～179頁、2004年2月。
- 「講演 詩と政治——SARSとレスリー・チャン死去の目撃者として香港文学を語る」〔也斯講演、飯田真紀／藤井省三訳〕、『ユリイカ』第36巻第5号、220～230頁、2004年5月。

- 「青菜スープの味」〔潘向黎著、藤井省三訳〕、『すばる』第27巻8号、93～106頁、2005年8月。
- 「大江健三郎が私たちに与える啓示（前篇）」〔莫言著、藤井省三訳〕、『東方』313号、11～15頁、2007年3月。
- 「大江健三郎氏が私たちに与える啓示（後篇）」〔莫言著、藤井省三訳〕、『東方』314号、10～13頁、2007年4月。
- 「地図集（抜粋）」〔董啓章著『地図集』、藤井省三抄訳・解説〕、『文學界』第64巻第10号、40～54頁、2010年10月。
- 「壊滅の中での省察（完全保存版3・11から一年100人の作家の言葉：この震災を忘れず、子どもたちに伝えるために：「文藝春秋」が見た関東、阪神・淡路、東日本大震災）」〔莫言談、藤井省三訳〕、『文芸春秋』第90巻第5号、344～349頁、2012年3月。
- 「^{トンカイチョン}董啓章講演 未来の考古学：今、香港で書くこと」〔董啓章講演、藤井省三訳〕、『文藝』第52巻第1号、262～271頁、2013年。
- 「美德」〔董啓章著、藤井省三訳〕、『文學界』68巻2号、62～112頁、2014年2月。
- 「1988：僕はこの世界と話したい（抄）〔すばる海外作家シリーズ(21) ^{ヘン}韓寒〕〔韓寒著、藤井省三訳〕、『すばる』37巻7号、286～294頁、297～306頁、2015年7月。
- 「海を渡る〔すばる海外作家シリーズ(22) ^{ホンライチユー}韓麗珠〕〔韓麗珠著、藤井省三訳〕、『すばる』第37巻第9号、290～308頁、2015年9月。
- 「聴こえない〔すばる海外作家シリーズ(23) ^{ヤンフーミン}楊富閔〕〔楊富閔著、藤井省三訳〕、『すばる』37巻11号、258～272頁、2015年11月。

2-5、雑纂等〔コラム・随筆・所感・インタビュー〕

- 「〔研究室〕桜美林大学文学部助教授 藤井省三さん——魯迅文学の現代性にひかれ」、『読売新聞』1987年2月9日。
- 「〔北京・上海冬物語〕（1）知識人に“故意の空白”」、『読売新聞』1992年2月17日夕刊。
- 「〔北京・上海冬物語〕（2）しなやかな知性の抵抗」、『読売新聞』1992年

- 2月18日夕刊。
- 「[北京・上海冬物語] (3) 動き出す国際都市・上海」、『読売新聞』1992年2月19日夕刊。
- 「[北京・上海冬物語] (4) 都市に漂う自由な雰囲気」、『読売新聞』1992年2月20日夕刊。
- 「[短評] 現代中国の輪郭」、『日本経済新聞』1993年6月13日朝刊。
- 「チベット三都見聞録／変わらぬチベット／低い中国語普及率、貧弱な道路」、『読売新聞』1996年8月5日夕刊。
- 「北京を流れる時間」、『北海道新聞』1996年3月1日。
- 「バスの中の北京／庶民の喜怒哀楽を乗せて」、『毎日新聞』1996年4月3日。
- 「台湾人と中国人との溝／知的成熟と民主化」、『京都新聞』1996年6月24日ほか〔共同通信配信〕。
- 「中国・台湾とどう付き合うか／“単位”社会深く理解を」、『朝日新聞』1996年7月29日。
- 「北京寂寞——四合院共同体と“単位”共同体」、『へるめす』第62号〔東京：岩波書店〕、192～205頁、1996年9月。
- 「魯迅『故郷』紀行／没後六〇周年に寄せて」、『聖教新聞』1996年10月15日。
- 「[11月の文芸] 藤井省三さんと ボーダーレス時代、問い直される国家と言語」、『読売新聞』1996年11月27日夕刊。
- 「香港返還 “快速の街” 不安も乗せて」、『読売新聞』1997年6月23日朝刊。
- 「香港返還一周年を前に——消える「自由な言論の場」」、『読売新聞』1998年6月24日夕刊。
- 「香港／書店巡りに強い味方登場」、『北海道新聞』1999年1月8日。
- 「中国／進む日本文化との相互越境」、『北海道新聞』1999年3月19日。
- 「中国／五・四運動国際シンポ」、『毎日新聞』1999年5月19日。
- 「香港／移民の街 若者4人が奮闘」、『北海道新聞』1999年5月21日。
- 「二等寝台車の“優雅”な旅」、『東京新聞』1999年9月28日。
- 「台湾／王昶雄逝去」、『北海道新聞』2000年2月4日。
- 「時期熟するのを待つべし」、『毎日新聞』2000年4月27日。
- 「香港、北京の英語体験」、岩波新書編集部『英語とわたし』所収〔東京：

- 岩波書店)、2000年11月。
- 「中国／長江賞論争と民主化」、『毎日新聞』2001年2月8日。
- 「中国／喪失の歴史を回顧」、『北海道新聞』2001年2月13日。
- 「インドカリーとロシアボルシチ——中村屋とボースとエロシエンコ」、
『アンビシャス・ガール—相馬黒光展』所収〔仙台文学館編集・発行〕、
2001年3月。
- 「台湾／外省人の流浪と改名」、『毎日新聞』2001年4月12日。
- 「香港／香港文化シンポジウム」、『北海道新聞』2001年4月24日。
- 「香港／大陸への異議申し立て」、『毎日新聞』2001年6月28日。
- 「『魯迅毒殺説』、再び」、『北海道新聞』2001年7月24日。
- 「魯迅生誕120周年」、『毎日新聞』2001年9月6日。
- 「香港／忘れられぬ大宴会」、『北海道新聞』2001年10月16日。
- 「『日本語人』の自分史」、『毎日新聞』2001年11月8日。
- 「中国／想像絶する危機を告発」、『毎日新聞』2002年4月4日。
- 「藤井省三氏——故郷の喪失、自分の原点（あとがきのあと）」、『日本経済
新聞』2002年4月7日朝刊〔『魯迅事典』についてのインタビュー記事〕。
- 「台湾／注目集まる戦前期文化」、『毎日新聞』2002年6月6日。
- 「返還5年、香港の不安」、『毎日新聞』2002年6月16日。
- 「イラク戦争／「反戦」にも差異、米・中・台の微妙な三者関係」、『愛媛新聞』
2003年4月6日ほか〔共同通信社配信〕。
- 「中国／SARS禍が次のテーマ?」、『北海道新聞』2003年6月3日。
- 「中国／SARS後が訪日ラッシュ」、『北海道新聞』2003年8月19日。
- 「〔インタビュー〕著者の視点——この人に聞く——『中国見聞一五〇年』
の著者藤井省三さん」、『創価新報』2003年11月19日。
- 「私の王府井ウォーク」、『CHAI』2004年2月号〔東京：中文産業〕、2頁。
- 「新興店に甘いグルメ本」、『北海道新聞』2004年4月20日夕刊。
- 「だから翻訳はおもしろい(12) 中国文学者という「しびれた触手」」、『図
書』第660号〔東京：岩波書店〕、38～40頁、2004年4月。
- 「日中の文化交流を願う」、『北海道新聞』2004年9月28日。
- 「中国英語25年——文化大革命終息後から上海・新天地まで」(特集「英

- 語は世界でどう話されているか——World English 入門』、『英語教育』第 53 卷第 11 号、26～28 頁、2005 年 1 月。
- 「〔インタビュー〕SPECIAL INTERVIEW：中産階級の人々を表現した作品から、リアルな中国の姿が見えてきます。』、『上海 WALKER』2006 年 2 月号〔上海：上海転播出版社〕、13 頁。
- 「〔インタビュー〕東アジアでの「春樹」の読まれ方／互いの歴史意識共有する可能性／藤井省三さん／中国文学者」、共同通信社配信、『東奥日報』2006 年 5 月 28 日ほか。
- 「〔インタビュー〕春樹——なぜ海外で読まれるか／失ったもの考えさせる〈中国〉』、『読売新聞』2006 年 6 月 5 日。
- 「〔インタビュー〕紀念魯迅誕辰 125 周年暨逝世 70 周年／“所有日本学生读过「故乡」”／日本著名魯迅研究专家藤井省三访谈录」〔インタビュアー：何徳功記者〕、『参考消息』〔中国：新华通讯社〕、2006 年 10 月 19 日、12 頁。
- 「中国文学者という「しびれた触手」』、岩波新書編集部編『翻訳家の仕事』所収〔東京：岩波書店〕、47～52 頁、2006 年 12 月。
- 「週刊新潮掲示板』、『週刊新潮』2008 年 8 月 7 日号、78 頁。
- 「魯迅を新訳／魯迅の深い苦悩伝えたい／日本語訳文の「魯迅化」で人物の内面に迫る』、『公明新聞』2009 年 7 月 14 日。
- 「青春の一冊：白酒精神に誘われ中文へ「阿 Q 正伝」魯迅著』、『東京大学新聞』第 3591 号、2009 年 12 月 8 日。
- 「週刊新潮掲示板』、『週刊新潮』2011 年 11 月 10 日号、76 頁。
- NHK ラジオ国際放送局「東瀛之声～中国文学、日本文学、その魅力～」〔泉京鹿氏との対談〕、2014 年 2 月 9 日放送。
- 「魯迅の弟：周作人宛て 1400 通 藤井省三・東京大教授の話』、『毎日新聞』2015 年 3 月 25 日朝刊。
- 「言葉のアルバム 魯迅の心に阿 Q が宿る」〔インタビュアー：藤原善晴記者〕、『読売新聞』2015 年 8 月 21 日夕刊。
- 「今、魯迅を読むことの意味』、『公明新聞』2015 年 10 月 4 日。
- 「〔インタビュー〕'For the love of Lu Xun', interview by Cai Hong, in "China

Daily”, p32, 25th Nov.2016-1st Jan.2016.

「現代北京的“老炮儿”与民国时期的闰土」〔中国語〕林敏潔译／「現代北京の“老炮兒”と民国期の閏土」〔日本語〕、『日经中文网』2016年3月14日。

<http://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/18650-20160314.html>

「在东京池袋与余华同赏戏剧《兄弟》」〔中国語〕林敏潔译、〔東京・池袋で余華さんと演劇『兄弟』を見て〕〔日本語〕、『日经中文网』2016年4月21日。

<http://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/19163-20160421.html?limitstart=0>

「老外汉学家的车轱辘话 (3) “永远的少年” 村上春树成为耶鲁大学名誉文学博士之际」〔中国語〕林敏潔译／〔“老外漢學家”の繰り言 (3) 「永遠的少年」村上春樹がイエール大学名誉文学博士となる時〕〔日本語〕、『日经中文网』2016年7月15日。

<http://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/20488-20160715.html>

「魯迅もそばが大好きですか?」、季刊「新そば」編『そばと私——文春文庫』所収〔東京：文藝春秋社〕、230～233頁、2016年9月。

「老外汉学家的车轱辘话 (4) 莫言畅谈“The Book of Novels”」〔中国語〕林敏潔译／〔老外漢學家の繰り言 (4) 莫言が名調子で語る“The Book of Novels”〕〔日本語〕、『日经中文网』2016年12月28日。

<http://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/23014-2016-12-28-04-59-13.html>

「老外汉学家的车轱辘话 (5) 现代中国学生与毛泽东的《体育之研究》」〔中国語〕林敏潔译／〔老外漢學家の繰り言 (5) 現代中国の学生と毛沢東の「体育之研究」〕〔日本語〕、『日经中文网』2017年2月4日。

<http://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/23538-2017-02-04-06-57-45.html>

「老外汉学家的车轱辘话 (6) 村上春树中的“南京大虐杀”——新作《刺死骑士团长》中的中国」〔中国語〕林敏潔译／〔“老外漢學家”の繰り言 (6) 村上春樹の中の「南京事件」——新作『騎士団長殺し』における中国〕〔日本語〕、『日经中文网』2017年3月20日。

<https://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/24257-2017-03-20-04-59-39>

html

「老外汉学家的车轱辘话 (7) 杭州的鲁迅樱」〔中国語〕林敏潔译／「“老外漢学家”の繰り言 (7) 杭州の魯迅桜」〔日本語〕、『日経中文网』2017年5月19日。

<https://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/25199-2017-05-19-04-55-00>.

html

「〔インタビュー〕日本鲁迅研究的历史与现状——藤井省三教授访谈」〔中国語〕呂周聚译、『社会科学辑刊』2017年5期、149～154頁、2017年5月。

「老外汉学家的车轱辘话 (8) 東京大学第90届五月校園节与中国高校的联欢会」〔中国語〕林敏潔译／「“老外漢学家”の繰り言 (8) 東大第90回五月祭と中国の大学聯歓会」〔日本語〕、『日経中文网』2017年6月13日。

<http://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/25542-2017-06-13-04-56-00>.

html

「老外汉学家的车轱辘话 (9) 走进仙台皮肤科学会的“鲁迅”」〔中国語〕林敏潔译／「“老老外漢学家”の繰り言 (9) 仙台の皮膚科学会における魯迅」〔日本語〕、『日経中文网』2017年7月17日。

<https://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/26032-2017-07-17-04-54-00>.

html

「老外汉学家的车轱辘话 (10) 由首尔的“中国电影论坛”想起」〔中国語〕林敏潔译／「“老老外漢学家”の繰り言 (10) ソウルの「中国映画フォーラム」で思い出す」〔日本語〕、『日経中文网』2017年7月17日。

<http://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/26745-2017-08-30-04-54-00>.

html

「老外汉学家的车轱辘话 (11) 中国的网络谣言和电视剧」〔中国語〕林敏潔译／「“老老外漢学家”の繰り言 (11) 中国のネットデマとテレビドラマ」〔日本語〕、『日経中文网』2017年9月17日。

<http://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/26959-2017-09-17-04-51-10>.

html?limitstart=0

「老外汉学家的车轱辘话 (12) “网” (枉) 言可畏——中国的网络谣言和鲁迅

的教诲」〔中国語〕林敏潔译／「“老老外漢学家”の繰り言(12)“網”言可畏〔もうげんおそるべし〕——中国のネットデマと魯迅の教え」〔日本語〕、『日経中文网』2017年10月30日。

<http://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/27600-2017-10-30-04-51-40.html>

「老外汉学家的车轱辘话(13)多重“自画像”的记忆——山形电影节所观中国电影纪录片」〔中国語〕林敏潔译／「“老老外漢学家”の繰り言(13)多重の“自画像”としての記憶——山形映画祭で見た中国ドキュメンタリー映画」〔日本語〕、『日経中文网』2017年12月27日。

<https://cn.nikkei.com/columnviewpoint/column/28530-2017-12-27-04-51-20.html?limitstart=0>

「希望語る魯迅に救われ」、『読売新聞』2018年3月18日朝刊。

「文学の力信じる学者の矜持——藤井省三さん最終講義」、『四国新聞』2018年3月28日ほか〔共同通信配信〕。

3、国際会議講演報告類

〔表記について〕

会議の名称／開催場所／開催期間／〔役割〕／講演タイトルを記した。

International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa、東京・京都、1984年8月1日。

報告“Lu Xun 魯迅 and Natume Soseki 夏目漱石——How Leonid Andreev Influenced Them”

第13回国際比較文学会東京会議、東京、1991年8月25日。

招待講演“How Japanese linguists introduced Lu Xun 魯迅 in textbooks and classes of Chinese--A study on the introduction of modern Chinese literature and the Japanese understanding of China before the

War”

中日翻譯文学小型座談会、台湾台北市：文化建設委員会主催、1992年3月29日～4月3日。

招待講演「對台湾的日本文化界之意識形態——佐藤春夫の小説「女誠扇綺譚」裡面的殖民主義和民族主義」

中国現代文学国際学会〔台湾中央研究院主催〕、台湾台北市：中央研究院文哲研究所、1993年12月20日～21日。

招待講演「鉛筆の恋愛、汽車の共和国——胡適の留美經驗与「終身大事」

the 2nd International Sinological Symposium, Institute of Asian and African Studies of the Slovak Academy of Sciences, Smolenice Castle, Bratislava, June 22 ~ 25, 1993.

招待講演“On the Influence of the Legend of The Wondering Jew'on Lu Xun and Akutagawa Ryunosuke“

日坳期台湾文学国際学会〔清華大学中文系主催〕、台湾新竹市：清華大学、1994年11月25日～27日。

招待講演「“大東亞戦争”時期台湾読書市場的成熟和文壇の成立——從皇民化運動到台湾国家主義之道路」

魯迅芸術思想與当代文芸運動国際學術研討会〔魯迅学会主催〕、中国湖南省：湖南省張家界、1995年9月21日～25日。

研究報告「作為“小説共和国”的故郷——魯迅與莫言」

呂赫若文学国際研討会〔台湾台北市：連合報社主催〕、台湾台北市、1996年11月30日～12月2日。

招待講演「呂赫若与東宝国民劇——自入東京声専音楽学校到演出『大東亞歌舞劇』」

第30回東洋学学術会議〔成均館大学校大東文化研究院・韓国中国現代文学学会共催〕、韓国ソウル市：成均館大学校、1997年12月15日～17日。
招待講演「魯迅「故郷」の読書史與中華民国公共圏の成熟」

香港文学国際研討会、香港：香港中文大学、1999年4月15日～17日。
招待講演「小説爲何如何讓人「記憶」香港——李碧華『胭脂扣』与香港意識」

“The May 4th International Symposium”、中国北京市：北京大学、1999年5月1日。
招待講演“How Japanese started to study contemporary Chinese Literature after the May 4th Movement”

京都大学人文科学研究所70周年記念シンポジウム、京都市：京都大学人文科学研究所、1999年11月20日。
招待講演「香港意識の形成與李碧華文学」

第2回日台シンポジウム、東京：法政大学、1999年12月3日～1999年12月4日。
招待講演「帝国主義支配下台湾文学のダイナミズム」

東大シンポジウム（TODAI INTERNATIONAL SYMPOSIUM）、東京：東京大学山上会館1999年12月14日～1999年12月16日〔オーガナイザー〕
特別講演「佐藤春夫和岩波文庫『魯迅選集』」

「張愛玲与二十世紀中文文学」学術研討会、香港：嶺南大学、2000年10月24日～26日。
招待講演「中国文学翻譯者室伏克拉拉——日本最早的「張迷」」

韓国中国現代文学学会第6回中国現代文学国際学術大会、韓国：ソウル大学、2000年12月14日～15日。

招待講演「日本人研究者の現代中国文学史」

廿一世紀中国学術研究前瞻国際学術研討会、香港：香港大学、2001年1月17日～19日。

招待講演「村上春樹与東亜——作為都市現代化標誌の文学」

"Taiwan Under the Colonial Rule: 1895-1945 History, Culture, Memory", ニューヨーク：コロンビア大学、2002年3月29日～30日。

招待講演“The Formation of Taiwanese Identity and the Cultural Policy of Various Outside Regimes”

第1回中国現代文学重州学者国際学術会議「越界与跨国：中国現代学研究的区域視角与多元探索」、シンガポール：シンガポール大学、2002年4月20～21日。

基調講演「三省堂版『魯迅事典』の発行与21世紀魯迅研究」

台湾文学史書写国際学術会議、台湾台南市：台湾成功大学中文系、2002年11月22～24日。

招待講演「諸外来政權之文化政策与台湾意識の形成」

AAS（アジア学会）ニューヨーク大会パネル“Transculturalism and Transnationalism in 1940s's Taipei”, 米国ニューヨーク、2003年3月30日。

研究報告“The Rise and Fall of Taipei Cinema League : Film Revolution in 1930's Modern City”

『人民中国』創刊50周年記念シンポジウム、東京：日中友好会館、2003年7月12日。

招待講演「村上春樹の中の中国」

現代中文文学国際会議、香港：嶺南大学、2003年10月13日。

招待講演「二十世紀日本对中国現代文学的接受」

「北京：都市想像与文化記憶」国際学術研討会、中国北京市：北京大学中文系、2003年10月22日。

招待講演「芥川龍之介の北京体験——短編小説「湖南の扇」和佐藤春夫「女誠扇綺譚」

日台文化交流フォーラム、東京：明治学院大学白金キャンパス本館、2003年11月9日。

招待講演「クレオールとしての台湾文化」

シンポジウム「惜別～藤野巖九郎と魯迅」〔芦原町主催〕、福井県芦原町、2003年11月24日。

招待講演「魯迅と日本人」

第2回文化建設委員会文学翻訳賞・台湾文学翻訳シンポジウム〔台湾文学協会主催〕、台湾台北市：台湾電視公司、2003年12月19日。

招待講演「日本における台湾文学翻訳出版の歴史的変遷」

「“想像の共同体”の再検討」国際研討会、台湾台北市：現代文化基金会、2003年12月20日。

招待講演「中国語圏文学史の構想と“想像の共同体”理論」

東大中文・現代台湾文学国際シンポジウム、東京：東京大学山上会館、2004年9月28日～10月1日〔オーガナイザー・実行委員長〕

第2回中国現代文学亜州学者国際学術会議、韓国ソウル市：韓国外国語大学校、2004年11月5日。

招待講演「中国、香港、台湾與村上春樹」

韓国中国現代文学学会「審視中国電影的角度」、韓国、2004年12月4日。

招待講演「台湾電影中的精神創傷——地鐵、或者圍繞着鉦山城市台北的坑道的記憶」

第1回LAC国際シンポジウム、東京：東京大学教養学部、2005年3月18日。

招待講演「台湾映画の地下鉄というトラウマ —— 鉦山の街台北の坑道の記憶をめぐって」

2005年台日国際學術研討會、台湾台北市：國家圖書館國際會議廳、2005年10月29日～2005年10月30日〔その他・チェア〕

国際シンポジウム&ワークショップ「春樹をめぐる冒険——世界は村上文学をどう読むか」東京シンポジウム、東京：東京大学駒場キャンパス18号館ホール、2006年3月26日〔オーガナイザー〕

国際シンポジウム&ワークショップ「春樹をめぐる冒険——世界は村上文学をどう読むか」札幌シンポジウム、北海道札幌市：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟203室、2006年3月29日〔オーガナイザー〕

東京—^{ソウル}首爾中國現代文學研究對話會、東京：東京大学山上会館、2006年7月15日～2006年7月16日〔オーガナイザー〕

2006年台日国際學術研討會、台湾台北市：國家圖書館國際會議廳、2006年9月9日～2006年9月10日〔その他・チェア〕

「台灣文學藝術與東亞現代性」国際學術研討會、台湾台北市：政治大学、2006年11月12日。

招待講演「村上春樹裡面的中國：以〈雪梨的綠街〉〈開往中國的慢船〉《聽

風の歌》三篇小説為主」

日中青年作家会議、中国北京市：中国社会科学院、2006年12月23日。

招待講演「日本に越境した同時代の中国文学」

TAIWAN AND ITS CONTEXTS、New Haven：Yale University、27th
April 2007.

招待講演 "The Reception of Murakami Haruki (Cun-shang Chun-shu) in
Taiwan"

日台比較文化研究のための日台合同ワークショップ、千葉市：東京大学検
見川セミナーハウスおよび同山上会館、2007年7月3日～2007年7月
5日〔オーガナイザー〕

2007年台日国際學術研討會、台湾台北市：國家圖書館國際會議廳、2007
年9月8日。

招待講演「台湾人「新感覚派」作家劉吶鷗における1927年の政治と“性
事”——日本短篇小説集『色情文化』の中国語訳をめぐる」

香港文學的定位、論題及研究、香港：嶺南大學康樂樓林秀樑會議中心、
2007年12月21日。

招待講演「香港人心目中的村上春樹」

第9回LAC国際シンポジウム、東京：東京大学駒場学際交流ホール、
2008年2月2日。

招待講演「2000年中国映画における「日本兵」の記憶：姜文監督『鬼
が来た！』と蔣欽民監督『戦場に咲く花』」

東京大學・高麗大學共同主辦「日本語學・日本文學・中國文學國際學術研
討會」、東京：東京大学文学部法文1号館、2008年2月19日。

基調講演「魯迅与村上春樹・王家衛：東亜文学・電影中“阿Q”系譜」

東京大学中文国際シンポジウム、東京：東京大学山上会館大会議場、2008年11月1日〔オーガナイザー〕

五四与中国現当代文学国際シンポジウム、中国北京市：北京大学、2009年4月23日～2009年4月25日。

招待講演「魯迅の「孔乙己」与芥川龍之介「毛利先生」——圍繞清末讀書人和大正時期英語教師展開的回憶故事」〔チェア：戯劇、影視以及歴史書写セッション〕

The 9th conference of Science Council of Asia, Asia Grand Copthorne Waterfront Hotel, Singapore、18th June 2009〔組織委員〕

講演“Special Session: Popular Culture in Asia“Families in the Films of Asia” & “The Past and The Present Development of Singapore films.”〔日本学術会議アジア学術会議分科会委員として Chinese Division〕、School of Humanities and Social Sciences (HSS)、Nanyang Technological University と共催

一般講演「新加坡小説、電影中の非婚和無性——陳華彪小説《超級鐵鏈男的故事》与梁智強電影《我在政府部門的日子》的比較研究」

第四屆經典人物—李昂跨領域國際學術研討會／性別、記憶與跨文化書寫、台湾嘉義市：中正大学台湾文学研究所、2010年5月21日。

基調講演「日本文化界与李昂的對話——以吉本芭娜娜（YOSHIMOTO Banana）和小川洋子（OGAWA Yoko）為主」

the 10th Science Council of Asia Conference in Manila、フィリピンマニラ：Sofitel Philippine Plaza Manila、2010年6月15日〔組織委員〕

チェア：Pop Culture in Asia- Comparison of Film Culture

第八屆東亞現代中文文學國際學術研討會、東京：慶應義塾大学日吉キャンパス、2010年11月3日〔組織委員等〕

コメンテーター：王潤華（臺灣：元智大學）報告「盧飛白：離散華人現代主義詩學與批評典範」、朴宰雨（韓國 韓國外國語大學）報告「反思、認同、諷刺：日帝下留韓、留日中國的三個文人敘寫韓國的文化與人的三種視線」柯慶明（臺灣 臺灣大學）報告「臺靜農先生詩作中的兩岸經驗」に対するコメント

第3回東京首爾中國現代文學研究對話會、東京：慶應義塾大学日吉キャンパス、2010年11月4日〔組織委員等〕

チェア：李炫政報告〔韓國：ソウル市立大學〕、吳敏報告〔中国：華東政法大学〕

東亜的‘阿Q’形象之系譜 Workshop、韓国ソウル市：東国大学校、2010年12月2日〔組織委員等〕

招待講演「魯迅文学里的‘阿Q’形象的系譜：以『呐喊』、『彷徨』為主」

11th SCA（アジア学術会議）at Mongolia、ウランバートル：Mongolia-Japan Center for Human Resources Development, National University of Mongolia、2011年6月4日〔組織委員等〕

チェア：Pop Culture in Asia“*The Landscape of Mongolia – the formation of its “prairie image” in East Asia.*

侯孝賢映画シンポジウム、名古屋市：名古屋大学東山キャンパス・カンファレンスホール、2011年6月26日。

基調講演「『百年恋歌』の中の台湾百年史」

紀念魯迅誕辰130周年暨“魯迅：經典与現實”國際學術研討会、中国紹興市：咸亨大酒店、2011年9月26日。

招待講演「村上春樹《1 Q 84》中《阿Q正伝》的亡霊們」

「日本文學中的台灣」國際研討會〔中央研究院人文社會科學研究中心亞太區域研究專題中心地點主催〕、台湾台北市：中央研究院民族學研究所大樓、2011年10月7日。

基調講演「西川滿の戦後創作活動と近代日本文学史における第二期台湾ブーム」

璀璨波光—2011 劉訥鷗國際研討會 (Illuminations at 2011 International Conference on Liu Na-ou)、台湾中壢区：國立中央大學文學院二館三樓國際會議廳、2011年10月9日。

基調講演「劉訥鷗在一九三〇年代的東亞文化」国立中央大學、國立台湾文學館共催」

第9屆東亞現代中文文學國際學術研討會(II)・韓國中語中文學會 2011年度聯合國際學術大會、韓国ソウル市：崇實大學校、2011年10月29日。
招待講演「侯孝賢創造台湾百年史電影之時——《最好的時光 Three Times》中的歷史記憶」

「東アジアにおける魯迅「阿Q」像の系譜」第3回ワークショップ〔東京大学中文・台湾大学台湾文学研究所共催〕、台湾台北市：台湾大学台湾文学研究所、2011年11月16日〔組織委員等〕

招待講演「村上春樹《1 Q 84》中《阿Q正伝》的亡霊們」

東京大学中文・南大中国新文学研究中心共催研究會、東京：東京大学山上會館・東京大学赤門総合研究棟、2011年11月4日～2011年11月5日〔オーガナイザー〕

東京大学中文・台大台文所共催東アジア文化ワークショップ、東京：東京大学山中寮・東京大学文学部、2012年7月30日～2012年8月3日〔オーガナイザー〕

南開大学外国語学院日語文学科創立四十周年記念「東アジア文学と文化の交流」国際学術シンポ、中国天津市：南開大学、2012年9月9日。

招待講演「『Lexingtonの幽霊』におけるアジア戦争の記憶——村上春樹“デタッチメント”時代の終わりをめぐって」

国際魯迅研究会与中国伝媒大学文学院連合主辦“国際魯迅研究会第一屆學術論壇：北京論壇”、中国北京市：中国伝媒大学文学院、2012年11月10日。

招待講演「松本清張 (Seicho Matsumoto) 的初期小説《父系之手指》与魯迅作品《故郷》：從貧困者“棄”鄉的“私小説”到推理小説《埋伏》的展開」

東アジアにおける魯迅「阿Q」像の系譜、東京：東京大学山上会館、2012年11月23日～11月24日〔オーガナイザー〕

第12回桜美林大学・北京大学学術シンポジウム、東京：桜美林大学多目的チャペル(桂冠堂)、2012年12月15日。

招待講演「村上春樹と中国：『ノルウェイの森』から『1Q84』まで」

第4回東京－ソウル現代中国文学ワークショップ、韓国ソウル市：高麗大学、2012年12月27日～2012年12月28日〔コメンテーター〕

WL in T / 東京世界文学会議 World Literature and Japanese Literature in the Era of Globalization、東京：東京大学山上会館、2013年3月3日。

招待講演“Natsume Soseki 夏目漱石, Lu Xun 魯迅, and Murakami Haruki 村上春樹：A Genealogy of the Ah Q 阿Q Image in East Asian Literature”

国際魯迅研討会、中国南京市：南京師範大学、2013年3月23日。

招待講演「魯迅恋愛小説中の留白匠意：《傷逝》与森鷗外《舞姫》的比較研究」

跨文化視閥中的当代華語文学国際學術研討会、中国南京市：南京師範大学
文学院、2013年6月8日。

招待講演「莫言文学在日本的翻譯与傳播」

名古屋シンポジウム：分裂の物語・分裂する物語——漂泊する叙事 1940
年代中華圏における文化接触史、名古屋市：愛知大学車道校舎コンベン
ションホール、2013年8月3日～2013年8月4日。

〔チェア〕「再構築される分裂の記憶」

文化の越境と他者の表象、中国重慶市：四川外語大学、2013年10月18日。

基調講演「魯迅恋愛小説における空白の意匠：「愛と死（原題：傷逝）」
と森鷗外「舞姫」との比較研究」

流轉中的文學——第十屆東亞學者現代中文文學國際學術研討會、香港：香
港教育學院、2013年10月25日。

招待講演「村上春樹“超然”時代的終結——以《列克星敦的幽靈》中東
亞戰爭的記憶為中心」

日台作家東京會議、東京：東京大学山上會館、2013年11月15日～2013
年11月16日〔オーガナイザー〕

「現代東アジア文学史の国際共同研究」ワークショップ、東京：東京大学
文学部、2013年12月22日～2013年12月23日〔オーガナイザー〕

中国現代作家手稿及文献国際學術研討会、中国上海市：上海魯迅紀念館、
2014年8月15日。

招待講演「魯迅帰郷故事三篇与莫言「懷抱鮮花的女人」——以托爾斯
泰《安娜・卡列尼娜》為輔助線來比較」

日本學振會科研費國際共同研究計劃：東亞文學史台北學術工作坊〔東京大

学文学部中文研究室・台湾大学台湾文学研究所共催)、台湾台北市：台湾大学台湾文学研究所、2014年9月27日。

基調講演「魯迅歸鄉故事三篇與莫言「懷抱鮮花的女人」——以托爾斯泰《安娜·卡列尼娜》為輔助線來比較」

講述中国与對話世界：莫言与中国当代文学國際學術研討會、中国北京市：北京師範大学國際写作中心、2014年10月24日。

招待講演「莫言与魯迅之間的歸鄉故事系譜——以托爾斯泰《安娜·卡列尼娜》為輔助線」

第三屆 21 世紀世界華文文學高峰會議、中国南京市：南京大学、2014年11月2日。

招待講演「魯迅歸鄉故事三篇与莫言「懷抱鮮花的女人」的比較研究——以托爾斯泰《安娜·卡列尼娜》為輔助線」

第 5 屆國際魯迅研究会蘇州論壇、江蘇省蘇州市：蘇州大学、2014年11月21日。

招待講演「夏目漱石『哥兒』与魯迅「阿Q正伝」之比較研究——以女僕阿清与吳媽的系譜為輔助線」

「村上春樹と中国」國際シンポジウム、中国上海市：上海杉達学院、2014年12月6日。

基調講演「莫言と村上春樹あるいは東アジア 1989 年の『アンナ・カレーニナ』」

第 5 回東京—首爾^{ソウル}中國現代文學研究對話會、東京：早稲田大学 11 号館會議室、2014年12月19日～12月20日〔組織委員等（名誉委員長）〕

コメンテーター：第五場《歷史記錄與文學創作》13. 被召喚的 80 年代：歷史記憶和文化想像初探

第 60 回国際東方学会議シンポジウム：東アジアにおける村上春樹、東京都千代田区：教育会館、2015 年 5 月 15 日〔組織委員等〕

シンポジウム「現代東アジア文学史の国際共同研究」、北九州市：北九州市立松本清張記念館、2015 年 8 月 22 日～8 月 23 日〔組織委員等〕
基調講演「夏目漱石と魯迅——「夜の支那人」事件から「阿Q正伝」まで」

第 2 回日台作家会議、台湾台北市：台湾大学、2015 年 10 月 14 日～10 月 15 日〔組織委員等〕

「日本という壁」シンポジウム、東京：東京大学伊藤ホール、2016 年 9 月 17 日。

チェア：Panel 4 日本の「壁」を語る詩人と作家／The Challenge of Japan in Contemporary Chinese Literature

International Conference on Interpreting the History of Hong Kong through Literature and Culture, The Hong Kong Institute of Education / Hong Kong Shue Yan University, 10th April 2015.

基調講演「日本文学中的香港景状：香港与這一百多年来的日本文化界」

The 6th Academic Forum , Dusseldorf Forum of International Society of Lu Xun Studies、ドイツデュッセルドルフ：デュッセルドルフ大学、2015 年 7 月 1 日。

招待講演「魯迅電影作品在日本的接受——以陳白塵改編、岑範導演的作品《阿Q正伝》(1981) 爲中心」

第 102 回日本エスぺラント大会、宮城県仙台市：仙台市民会館、2015 年 10 月 12 日。

招待講演「エロシェンコと魯迅」

互為方法的中国和日本／相互・方法としての中国と日本——中国の日本研究者と日本の中国研究者による北京対話〔日本国際交流基金北京事務所主催〕、中国北京市：北京大学、2016年3月15日

招待講演「現代日中文化交流の系譜：夏目漱石・魯迅・太宰治・村上春樹と村上チルドレン——付論：「竹内魯迅」の問題性」

国際台湾文学研討会、米国：カリフォルニア大学サンタバーバラ校 UCSB、2016年5月10日。

基調講演“On the representation of Taiwan image in the works of Taiwanese authors in Japanese language after the war: from Qiu Yonghan (邱永漢) to HIGASHIYAMA Akira (東山彰良 or 王震緒)”

The 2016 International Conference of The Korean Society for Literature and Religion (KSLR)、韓国ソウル市：三育大学、2016年7月7日。

招待講演「魯迅電影作品在日本的接受以《阿Q正伝》(1981)为中心」

2016 魯迅文化論壇、中国北京市：中国人民大学、2016年9月24日。

招待講演「佐藤春夫与魯迅 -- 兩位作家的相互翻譯和交往」

文藻外語大学シンポ：東アジアの文学交流、台湾高雄市：文藻外語大学、2017年6月10日。

基調講演「魯迅と日本近代作家：夏目漱石『坊っちゃん』と「阿Q正伝」」

大師対話：魯迅与夏目漱石、中国浙江省：紹興文理学院、2017年9月11日。

招待講演「作為日本“国民作家”的夏目漱石与魯迅」

会議名：北大中文系“現代文学与書写語言”国際學術研討会、中国北京市：北京大学、2017年9月22日。

招待講演「魯迅文学日語翻譯与標点問題：以竹内好的《呐喊》翻譯为中心」

漱石と魯迅、百年の“対話”〔中国語：大師対話——魯迅与夏目漱石〕〔東京大学文学部中文研究室・魯迅文化基金会・南京大学文学院・南京師範大学外国語学院共催、後援：朝日新聞社〕、東京：東京大学法学政治学系総合教育棟 102 号室、2017 年 10 月 21 日〔オーガナイザー〕
講演「日本の「国民作家」としての夏目漱石と魯迅」

(2018 年 11 月作成)